

昭和 63 年 度

講 義 要 項

早稲田大学 大学 暦

講 義 内 容

役 付 教 職 員 一 覧

ク ラ ス 担 任 者 一 覧

教 員 一 覧

建 物 ・ 号 館 案 内

構 内 案 内 図

1 9 8 8

早稲田大学 人間科学部

昭和63年度 早稲田大学大学暦

項		目	期		日	
入	学	式	学 部	昭和63年 4 月 1 日 (金)		
			大 学 院 科 専 攻 科	4 月 2 日 (土)		
前 期	授 開	業 始	学 部	4 月 2 日 (土)		十 六 週
			大 学 院 科 専 攻 科	4 月 4 日 (月)		
	授 業 終 了		7 月 21 日 (木)			
	夏 季 休 業	自	7 月 22 日 (金)	9 月 14 日 (水)		
至						
後 期	授 業 開 始		9 月 16 日 (金)		十 七 週	
	創 立 記 念 日		10 月 21 日 (金)			
	冬 季 休 業	自	12 月 17 日 (土)	昭和64年 1 月 7 日 (土)		
		至				
授 業 終 了		2 月 6 日 (月)				
春 季 休 業			自	2 月 7 日 (火)	3 月 31 日 (金)	
			至			
学部卒業式，専攻科修了式 および大学院学位授与式			3 月 25 日 (土)			
授 業 期 間			33 週			

目 次

講 義 内 容

一般教育科目	教養演習	1
	人文科学系	2
	社会科学系	4
	自然科学系	6
保健体育科目		9
基礎教育科目		11
専門教育科目		13
(各学科共通 必修)		
専門教育科目	人間基礎科学科	15
	人間健康科学科	25
	スポーツ科学科	41
専門教育科目		69
(各学科共通 選択)		
役付教職員一覧		75
クラス担任者一覧		77
教 員 一 覧		79
建物・号館案内		87
構 内 案 内 図		88

一 般 教 育 科 目

※全学科目 本年度（昭和63年度）開講科目

教 養 演 習（必修） 4単位

教養演習は、大学における勉学への導入的役割を果たすものと期待されており、演習参加者が勉学上の関心を主体的に充足する場であると同時に、クラスとして機能する、1年次に履習する3学科共通の科目である。

クラスは約30名編成20クラスで、3学科混成である。それぞれのクラスは入学手続後決定し、掲示する。

クラス	担 当 者	専攻分野
1	吉 村 作 治 助 教 授	考 古 学
2	寒 川 恒 夫 助 教 授	体 育 史
3	三 枝 幸 夫 教 授	英 語 学
4	上 田 雅 夫 教 授	ス ポ ー ツ 心 理 学
5	神 崎 巖 教 授	ド イ ツ 文 学
6	堀 田 郷 弘 教 授	フ ラ ン ス 現 代 文 学
7	坂 野 雄 二 助 教 授	行 動 臨 床 心 理 学
8	濱 野 吉 生 教 授	ス ポ ー ツ 法 学
9	宮 内 孝 知 助 教 授	体 育 社 会 学
10	谷 川 章 雄 専 任 講 師	文 化 人 類 学
11	臼 井 恒 夫 専 任 講 師	社 会 病 理 学
12	鈴 木 晶 夫 専 任 講 師	行 動 学
13	志々田 文 明 助 教 授	体 育 学
14	石 田 敏 郎 助 教 授	人 間 工 学
15	山 内 兄 人 助 教 授	組 織 学
16	根 建 金 男 専 任 講 師	行 動 学
17	永 田 晟 教 授	バ イ オ メ カ ニ ッ ク ス
18	比 企 静 雄 教 授	ス ポ ー ツ 工 学
19	青 柳 肇 専 任 講 師	動 機 心 理 学
20	佐々木 正 人 専 任 講 師	認 知 心 理 学

(人 文 科 学 系)

教 育 学 4単位

鈴木 慎 一

教育の意味を考えるとときには幾つかの視点から多元的に教育と呼ばれる事象を解析して
みる必要がある。

人間が人間として生きる生き方はさまざまだが、今、人間が人間の生き方を創り出して
ゆく営みを、仮りに文化と名付けることにして、文化の創造と伝達という観点から『教育』
を解析することを、この講義の一つの柱としたい。

同時に、人間は動物の種の一つとして、ヒトと名付けられた種の保存について、常に、
配慮しなければならない。そのことも文化の一つの形態になっているが、その基礎となる
動物としてのヒトの諸事実に即して、『教育』の意味を検討してみよう。講義の第二の柱
がこれである。

二つの柱を座標軸とする各次元に、それぞれ独自に定位される教育の諸相を横縦に取り
上げる。

〔参考書〕：フロム『認識過程の心理学』(大月書店)

ウィルソン『人間—約束するサル』(岩波現代選書)

宗 教 学 4単位

山 我 哲 雄

宗教学とは、特定の宗教を信ずる信仰の立場からではなく、宗教を人間の産み出した文化
現象の一つとして客観的、記述的に研究する実証的な学問である。本講座では、このよ
うな宗教学の視点、方法、目的を紹介し、宗教の持つ多様性と、人間生活の他のさまざま
な側面との関係について考察し、宗教の本質と諸側面を明らかにする。また原始・古代か
ら現代に至るまでの世界の代表的な諸宗教の思想を比較検討する。特に、旧約聖書系と言
われるユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の思想に重点を置く。受講者は世界史、文化
史への関心を持つ者が望ましい。

〔教科書〕：小山宙丸編『概説・宗教学』(稲門堂)

哲 学 4単位

速 川 治 郎

「哲学は何であるか」という問いに対して、その問いがまさに哲学であると答える人が
いる。それは一応答えになってはいるが、哲学の内容を十分に語ったことにはならない。
それで十分ならば、「哲学は何であるか」「哲学は何であるか」と繰り返し言っているなら
ば、哲学を語ったことになる。私の答えは講義の中で述べよう。ところで哲学の中味を語

る場合、必ず誰かの哲学にぶつかる。プラトン、アリストテレス、キケロ、デカルト、カント、ヘーゲル等々の哲学を基にして、われわれは語ることになるからである。哲学者を挙げないで自分ひとりで独創的なものを考えたつもりでも、哲学史上の哲学者がそれを語ったことになる。本年度はヨーロッパ哲学の中で、現代のわれわれが関心を持つべき哲学を選んで論じてみたい。教科書は使わない。参考書として、とりあえずH・グロックナーの訳書『ヨーロッパの哲学』上、中、下（早稲田大学出版部）を挙げておく。

倫 理 学 4単位

富 永 厚

科学はものごとがどのようにして (how) そうなっているかを問うことはできても、何のために (why) を問題にすることはしないと言われる。そもそも人間が人びとの間で生れ、死ぬこと、生命、自然、社会の意味など解っているつもりで、かならずしも明らかでないことが多い。この講義では、そうした世界と人間の根本にかかわる問題ならびに社会における人間関係の問題を、主としてフランスでの論議を軸にして考えていくことにしたい。

文 学 4単位

中 島 国 彦

夏目漱石の作品を主な素材として、文学のさまざまな問題を考える。人間関係が作中人物にどう影響しているか、社会と人間の関わりはどうか、文学的表現の特色は何か、などなるべく多方面にわたって考えてみたい。具体的な作品分析を重視するので、必ず文庫本などのテキストを手元に置いて授業を聴くこと。扱う作品は、その都度定めて行く。

日 本 文 化 史 4単位

谷 川 章 雄

日本人にとって日本文化を知することは自己を認識する上で不可欠な作業である。日本の文化は決して単一、不変なものではなく、長い歴史のなかで様々な要素が複雑にからみあって生成され、またそれぞれの地域文化は多くの変差を含んでいる。

本講義ではそうした観点に立って、日本文化史のなかでもとくに原始・古代の宗教を主題としてとりあげることにしたい。具体的には、各地の縄文時代から奈良・平安時代に至る遺跡の発掘資料のなかの呪術祭祀信仰に関するものを題材にして、その背景にある多様な宗教的世界を考えることにする。

すなわち、日本の歴史のなかで日本人の宗教の根源を探ろうとするのが本講義のねらいである。

比 較 文 明 論 4単位

吉 村 作 治

文明を論ずる時まず問題になるのは文化との関係である。本講座では文明の中でも古代文明を論ずることにより、文化との対比を行いたい。古代文明は中国を中心とした東アジ

アの文明とエジプト、メソポタミア、ペルシア、ギリシア、ローマといった西アジアの文明がユーラシア大陸の両端に存在し、古代社会を形成していた。本年はこの二大文明圏の交流を中心に、その周辺に及ぼした影響を考えてみたい。文明の伝播は文物、遺構等目で見ないと理解しづらい点も多いので、映像を使い講義を進めていく予定である。又西アジア文明については私の専門がエジプト文明にあるため、エジプトが中心となり、エジプトに於ける発掘等も講義の中で触れる。

映 像 論 4単位

〔前期〕奥 村 賢

〔後期〕岩 本 憲 児

写真が誕生した19世紀前半から、コンピュータ・グラフィックスの現代まで、映像メディアの変遷をながめながら、映像の特質を考えてみたい。写真・映画・テレビ・CG等、映像メディアが私たちにもたらしたものは何か？映像は20世紀の芸術や伝達のあり方をどのように変化させたのか？それは私たちの視点や思考をどのように新しくしたのか？講義の中心になるのは、映像メディアと既成芸術との関係、映画理論史上の主要な論点等であるが、視覚文化や複製文化、コミュニケーションやドキュメンタリー、映像とプロパガンダの問題等、社会的な広がりも含めたい。

教科書は使わないが、スライド・フィルム・テープ等、映像資料をできるだけたくさん使う予定。参考書は、『映画の教科書』（フィルムアート社）

（社 会 科 学 系）

法 学 4単位

奥 島 孝 康

イエーリンクは、その著『権利のための闘争』（岩波文庫）において、「法の目的は平和であり、それに達する手段は闘争である。」という有名な一句を記している。彼が、この本で真に主張したかったのは、権利と人格とは不可分の関係にあり、権利のために闘うということは自分自身の存在を主張することではなかったかと思われる。

本学部は、人間の尊厳の回復を学部設置の目的の一つとしている。本講義においても、人間というものを社会との関係で法がいかにとらえているか、法は人間をいかなるものと設定しているか、日常生活の中からケースを選びながら一緒に考えていきたい。そのような法というものの考え方を学びつつ、法とは何かを考えてみたい。

社会変動論 4単位

嵯峨座 晴 夫

社会変動とは、一般的にいて、社会の活動水準あるいは社会構造が変化することを意味している。このような変化を対象として、その変動パターン、原因、帰結などについて

て、社会学を中心として関連諸科学においていろいろと研究が進められてきた。例えば、社会進化論、発展段階論、近代化論などがあげられる。ここでは、まず第一に、これらの社会変動の基礎理論について概説する。

第二に、現代の主要潮流の一つである近代化について、日本社会を例にとりながら具体的な考察を試みる。さらに、この近代化がいわゆる第三世界にも波及する可能性があるかどうかについても検討する。

第三に、望ましい社会変動を意図的に引き起こすことを目的とした社会計画あるいは社会開発の意義と問題点についても論述する。

ヨーロッパ文化概論 4単位

蔵 持 不三也

貿易や文化面での国際協調が声高に叫ばれている今日、我が国の主要なパートナーであるヨーロッパに対する理解はなお不十分なものとどまっている。たとえば、肉食文化や合理主義といった皮相的かつ伝統的な見方である。本講ではヨーロッパ人および彼らの文化のルーツを先史考古学的観点から紹介し、さらにその今日の様相を文化人類学・民俗学的観点から追求して、旧来のヨーロッパ観を再検討したい。なお、講義ではできる限り多くのスライドやビデオを用いて受講者の理解に供したいと考えている。教科書あり。

教 育 法 4単位〔2年配当〕

今 橋 盛 勝

「教育と人権と法」のテーマで行う。学校教育は子ども・生徒が「人間として扱われながら学習・発達する」ことを保障するために存在するという基本的視点から、いじめ・体罰・校則・内申書・学校事故・スポーツ部活等の問題、紛争、裁判を検討したい。調査の方法、法社会的分析も紹介する。

とくに、多くの死亡・傷害事故を生み出している学校事故・スポーツ部活の教育法的検討をする。学校・教師の民事・刑事・行政責任についての理論と裁判例を紹介する。

九〇年代の日本では、子ども・生徒の人権が親の教育権・責任・学校関与権に連なっていくと思われる。欧米の教育法にも触れたい。もう一つは、地域・住民の教育力、教育参加が問題になろう。社会体育・スポーツ少年団を中心に考えてみたい。

東大・京大大学院での「教育法」の講義の経験をふまえて、議論できる講義、学生諸君が考える講義にしたい。

〔教科書〕：今橋盛勝『教育法と法社会学』（三省堂）

〔参考書〕：今橋他『スポーツ部活』（草土文化）、NHK取材班・今橋『体罰』（NHK出版局）

(自然科学系)

物理学 4単位

(前期) 鈴木 英雄

通常、物理学はその習得にかなりの数学的知識と時間を要すると言われており、多くの人々に敬遠されがちである。しかし、物理学の基本法則は極めて簡潔に表現されており、しかもその数は決して多くはない。従って、物理学を短時間で習得することには、その基本法則の内容を根本的に理解して、物理学的なものの考え方に早く慣れることである。本講では、力学（運動と力を扱う）、熱力学（熱とエントロピーを扱う）、電磁気学（電気と磁気を扱う）、光学（光を扱う）などの古典物理学の基本法則を、その歴史的形成過程に注目して根本的に理解できるように務める。また、数式も出来るだけ使わないように心掛ける。

(後期) 石 渡 信 一

物理学は従来、無生物界の現象を対象として発展してきたが、生物界に見られる現象の中には、古典物理学を直接適用できるものもある。本講義の後半では、できるだけ生命現象・生体機能の中から題材を選び、力学、電磁気学、熱・統計力学の初歩を学ぶ。参考書として、例えば、ベネディック、ピラース著『医系の物理』（吉岡書店）を挙げておく。

化学 4単位

(前期) 桜 井 英 博

(後期) 宇佐美 昭 次

人間と化学の関わり合いを中心に化学の基礎から話をする。前期は、化学の法則（原子説）、エネルギーの化学（熱力学と生体エネルギー）、環境の化学について紹介する。後期は、身のまわりの衣・住に関わる高分子化合物・有機化合物を取上げ、それらの化学的性質を概説する。

〔教科書〕：『新化学序説』（第2版）。化学同人教科書研究会編（化学同人）。

生態系科学 4単位

大 島 康 行

地球は、環境と生物が相互に作用し、一つの系となっている。この系、すなわち生態系について、構造と機能の両面から基本的な問題を概説する。さらに地域生態系の特徴、生態系の発展と安定性の維持の機構について理解していく。後半は生態系と人間生存にかかわる諸問題のうち、食糧、資源、環境問題等を生態系の視点から順次述べ理解を深めたいと考えている。

講義はプリント、スライド、ビデオ等を随時使用しておこなう。参考文献、図書は講義

の際、必要に応じ紹介する予定である。教科書として使用するものはない。

基礎数学 4単位

石垣 春夫

最近では、自然科学のみでなく、あらゆる分野で数学の考え方が必要とされている。

そこで、高校で学んだ数学Ⅰ、Ⅱを復習しながらさらに発展させ、社会科学や行動科学への応用を試みる。なるべく実際例から法則や、新しい概念を導くようにしたい。

[教材]：岡大彬訓著『基礎数学』（新曜社）（社会科学，行動科学のための数学入門1）

[参考書]：ポントリヤーギン著 坂本実訳『やさしい微積分』（東京図書）

生命科学論 4単位

中村 桂子

生命科学は新しい学問である。その特徴は、生物科学の基礎研究を進めて、人間の生物としての側面を解明していく一方、科学と社会の接点を考えていくことである。まず、現代生物学の主流を成す分子生物学で人間理解につながる知見がどこまで得られているかをまとめる。また、それ以外の分野でも、今どこまで人間の理解が進んでいるかをできるだけ広範な視野で捉える。そのうえで、生物学による人間理解と社会における人間観の関係を考えていきたい。

行動学 4単位

春木 豊

下等動物から人間までを「動物」、つまり「動くもの」という。このように行動は下等動物から人間までの全ての生命体のもつ共通の性質であり、特に複雑な内容をもつ人間にとっては、その底に流れていて、人間を支えているルーツの深い現象であるといえる。

日常生活で、人間は一時といえども行動していないことはないのであるが、ほとんど意識することなしに過している。行動学は人間の行動に焦点を当て、そこから人間の姿をながめてみようとするものである。

行動学は一つの大きな体系をもつものであるが、本講においては、特に行動の生態に焦点をしぼり、特に、人間関係の行動を中心にその生態を比較行動学的にみてゆくことにする。

なお、この講義は、行動学であるが、その内容は人間科学を考えるためのものであるように進めてゆく。

人類学 4単位

北原 隆

この科目では、人類の歴史を通して、地球のあらゆる環境の中で見られる人類の多様性を対象とする学問としての人類学の主な部門を紹介する。

自然人類学では、生物学の立場から、人類を動物世界の中に位置づけた後、ヒトの地球上での登場がどのように準備されたかを述べる。また、人類進化の主な段階を調べた上、人類の独自の生き方、「道具を基礎とする技術文明、相互協力を見せる社会生活、言語に

よるコミュニケーション」がどのように出現したかを検討する。同じ生物学的観点から、現生人類に見られる人種の意味を紹介し、将来、種としてのホモ・サピエンスが生き残る条件が何であるかを問う。

さらに本学部の専任の先生の協力を得て、文化人類学・社会人類学の立場から人類の多様性と変動にかかわる諸問題を紹介する。

最後にこれらを総合して、人類の今後の生存の条件を問うていきたい。

保健体育科目講義

※全学科目 本年度（昭和63年度）開講科目

比較体育論 2単位 〔前期〕〔後期〕

古市 英

特定国（ソ連、東ドイツ、日本、米国、中国、英国等）の社会における体育・スポーツについて、その特徴を見い出すと共に、それが置かれている社会的地位や評価に関して研究する。

また、国際社会の中での体育・スポーツについての意義や可能性、あるいはマイナス要素等をオリンピック大会を中心とした一側面と比較しながら言及する。

こうした作業を通して、スポーツや体育、または身体文化が進むべき将来の道を追求する。

教科書の使用を考えているが、詳しくは、第一回目の授業時に指示する。

体育と生活 2単位 〔前期〕〔後期〕

前田 勝也

体育とは何かと問えば、いろいろな立場からの見解が返ってくるであろうが、体育は少なくとも人間にかかわりのある事はいうまでもない、単にかかわりがある程度ではなく、体育は、幸福なそして豊かな人間を育成するための教育の中で、重要な領域の一つである。また、その人間教育の場が幾つかある中で、体育の最大目標を人間形成にあるとするならば、体育の実践活動の基盤となるものは、日常生活活動にあると、私は考えている。

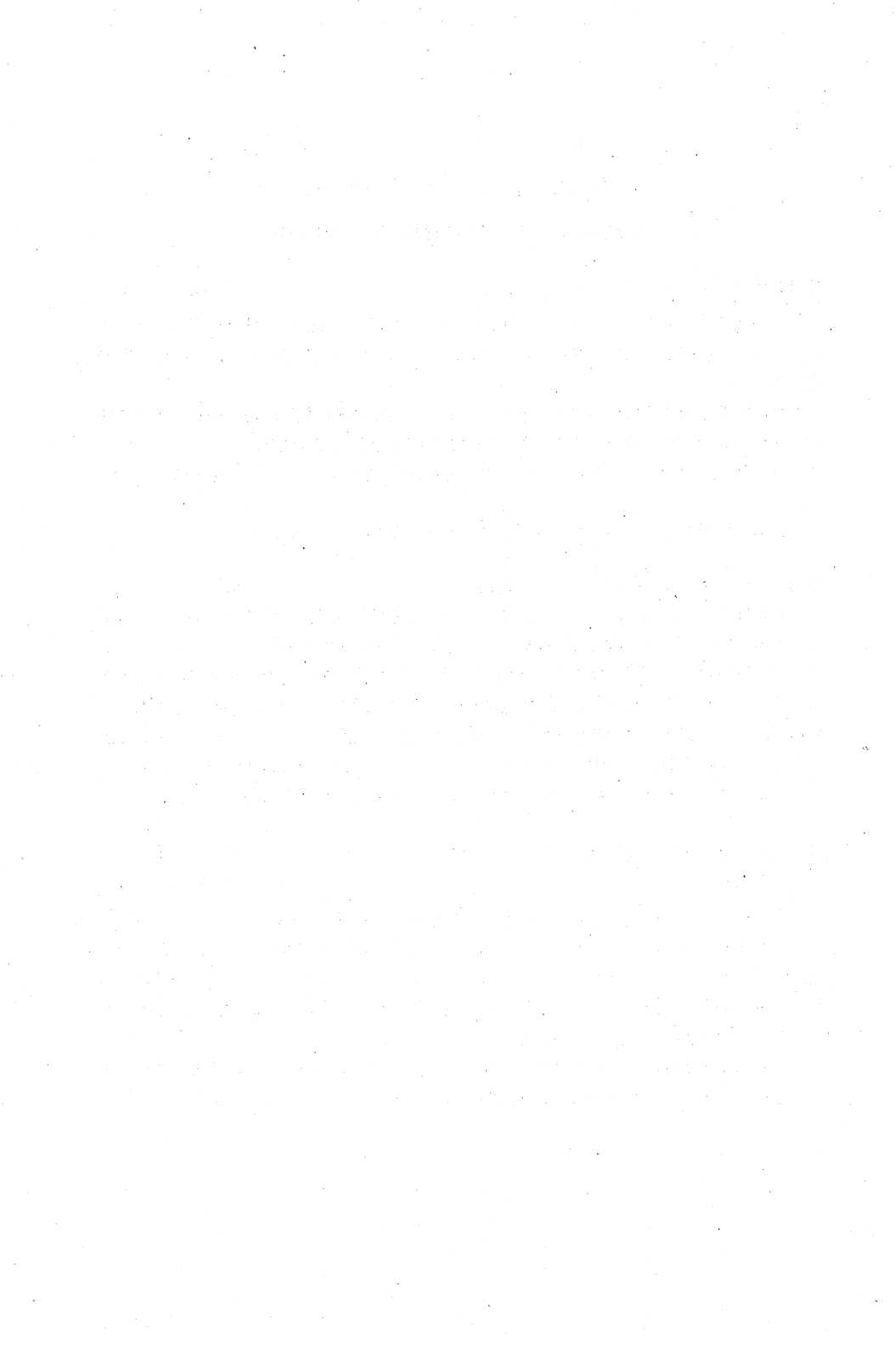
このような視点から、日常生活活動に注目して、これの充実をめざすためには、どのような事柄があり、それらをいかに組み立てていくべきかを中心として論じたい。

コンディショニング 2単位 〔前期〕〔後期〕

上田 雅夫
窪田 登

体力を維持、あるいは増強しながら心身の状態を良好に保っていくことがコンディショニングである。元来、これは主としてスポーツの分野で使われてきた。だが、生活環境が著しく変った今日では、たんにスポーツ選手のみならず、一般人のためにもこの技術が活用されるべき時代となった。運動不足状態が恒常的になり、複雑な人間関係に頭を悩まして、多くの文明病を生み出している昨今だからである。

本講義は10数回行われるうちの前半を窪田が、後半を上田が担当する。前者が身体面からのアプローチを、そして後者が心理面からのアプローチを試みる予定である。



基礎教育科目

※開講年度の表示のない学科目は、すべて本年度（昭和63年度）開講科目

人間の諸問題（総合講座）4単位

浅井 邦二
濱口 晴彦

人間とは何かという問いかけは、古今たえることなく問われつけられてきた問いであり、この問いかけに最終的に答えることのできたものはいない。しかし、人間は永遠にとらえどころのない謎そのものなのだろうか。謎の多い存在ではあるが、謎そのものではないと思う。

人間の諸問題は生と死、男と女、人間と環境、心と体など、人間をめぐるさまざまな問題をふくんでいるけれども、これらは人間とは何かという大状況の人間ではなく、人間のあり様を時間と空間という2つの軸の中に人間をおいて、もっと身近にひきよせ、多角的に考察する手がかりを与えている。今年度は人間の生と死という、人間の発端と終点をつなぐ過程をふくめ総合的にアプローチする。詳しい内容は講義登録のさい呈示する。

環境論（自然・人間）（総合講座）（昭和64年度開講科目）4単位

大島 康行
相馬 一郎

人間と環境のかかわりあいを総合的に考えていき、人間にとっての環境のあり方を再考し、問題意識をもってもらうことを意図している。そのため人間をとりまく自然環境と人間活動による環境の変化に関する諸問題（自然災害も含む）人工的・社会的環境と人間の行動といった諸問題を取りあげる。そして現在あるいは近い将来人間の生存にかかわる諸問題を共に考えていきたい。5～6名の教員が分担しておこなう予定である。

バイオエシックス（昭和65年度開講科目）4単位

青木 清
木村 利人
濱 清

近年生命への関心が高まっている。それは①自然科学の方向転換により自然科学の最前線が生命の探求に向っていること。②生命に関する解明が進むのと並行して生命の操作の技術化が急展開していること。③生命科学の進歩から自然科学的生命観の出現と、操作技術の展開により生命をどうとらえていくか、ということにある。これら三点について、生命科学の研究成果から述べる。

（青木）

現代の生物・医科学技術の急激な進歩と発展に対応して展開されてきた「バイオエシックス」の基本原則とその体系を、基本的人権及び公共政策の形成に焦点を合わせつつ講義する。
(木村)

生命科学の目覚ましい発達にもかかわらず、個人にとって最も重大な関心事でありながら何らの解決も与えられていない老化、病に伴う痛みなどの問題について考える。(濱)

情 報 処 理 (コンピュータ基礎・実習) 4 単位

石 田 敏 郎
野 嶋 栄 一 郎

計算機により問題を処理するための基礎的知識を得ることを目的とする。

まず計算機の仕組み、歴史等について概略を述べる。次に TSS 端末及びパーソナルコンピュータを用い、各種ユーティリティの利用法と高級言語によるプログラミングの実習を行う。

大きく次の3内容にわかれる。

1. コンピュータの基礎知識

コンピュータの仕組みと歴史、情報の表現、プログラミング言語とその特徴、オペレーティングシステムの概念とデータ処理

2. 基本操作

当該端末の操作 (TSS 端末, スタンドアロン), 各種ユーティリティの利用

3. プログラミング入門

流れ図によるプログラミング他

テキストは別途指定

〔参考書〕: IBM 5550 マニュアル等 (使用端末のマニュアルから選択)

人間の構造と機能 4 単位

木 村 一 郎
野 呂 影 勇

ヒトでみられる様々な生理現象について、分子から個体に至るいろいろなレベルでの構造的理解をもとに、それらのメカニズムについて概論する。

人間の構造と機能について総合的に理解するため、および生物としてのヒトを理解するために必要な基礎生物学的な学習を目的としている。
(木村)

ヒトの構造について個体レベルに焦点を当てて述べる。すなわち身体の構成、身体の区分、特徴、性差異について説明する。次に個体レベルでの機能として運動、感覚、神経などについて述べる。また情報の伝達経路について若干の具体例を挙げ述べる。以上により人間科学の基礎と応用に必要人間行動の生理学的及び生理情報学的側面についての理解を図る。

〔参考書〕: 『ガイドン』(内園・入来監訳)

『人体生理学: 第二版 上下 (1982)』(広川書店)

(野呂)

専門教育科目（各学科共通 必修）

※全学科目 本年度（昭和63年度）開講科目

人間発達の心理学 2単位 〔前期〕〔後期〕

東 清 和

人間の発達を生涯発達という視点からアプローチしてみたい。乳幼児、児童、青年、成人そして高年者の発達事実をとりあげながら、それらを説明するための発達理論を概説する。それに加えて男性と女性の心理的差異、すなわち性差の発達心理学をとりあげ、性差心理学の視点からの生涯発達を考えてみる。到来しつつある人生80年型社会における発達課題とは何かを問題として提起したい。

人間発達の社会学 2単位 〔後期2クラス〕

濱 口 晴 彦

人間発達の社会的側面を同一世代と異世代に分け、追体験的につぎのような構想で講述する。

1. 人間発達の社会的諸問題
2. 幼・少年期の社会学
3. 成人の社会学
4. 高年者の社会学
5. 問題点のまとめ

参考文献等はそのつど指示する。

人間発達の生命科学 2単位 〔前期〕〔後期〕

木 村 一 郎

ヒトの個体発生における生殖、発生、成長、成熟などの問題の理解の一助となるようなものとするを目的とする。

内容としては広義の動物発生生物学を主とし、組織や器官の形態形成などを扱いながら生命秩序の構築の基礎となる細胞の挙動について“細胞社会学”的観点から考えてみたい。

また、最近の生物工学の発展の中で発生生物学も大きくその研究方法において変貌を遂げつつあるが、発生工学ともいべき分野の研究方法やその成果についても解説し、バイオ時代の基礎生物学の理解、ということも意図してみたい。

人間発達のスポーツ科学 2単位 〔前期2クラス〕

永 田 晟

人間の発育発達を生涯の成長や加齢現象として捉え、それにスポーツがいかに働きかけ、いかなる影響をもつのかを講義する。そのためには、人間発達の態様を科学的に分析し、加齢と人間機能の関係を明確にしなければならない。さらにスポーツを科学的に分析し、

人間とスポーツの相互関連を考察する必要がある。さらにスポーツの効果を客観量として提示し、実践することをすすめる。

これらの内容を主に生理学、心理学、解剖学、社会学、物理学、人類学、老人学の立場で詳講し、“The biology of aging and sports”を中心に“Gerontology”の意味を理解させる。

〔教科書〕：『加齢のスポーツ科学』（ぎょうせい）

人間発達の行動学 2単位 〔後期2クラス〕

春 木 豊

人間は、その身体、知性、社会性について生涯に渡って成長し、あるいは衰退してゆく。これと同じように、人間の行動する力も誕生から死にいたるまで、複雑な様相を呈しつつ変容しているといえる。

本講においては、誕生から死に至るまでの間の行動の変容について概観する。すなわち、誕生時におけるほとんど生物的な行動から出発して、身体の成長、知性の向上とともに複雑な構造と多様な機能をもつようになる、人間らしい行動に発展してゆくさまを、特に人間関係の行動を中心に、その様相をみてゆくことにする。これはとりもなおさず、人間の社会性の向上を学ぶことにもなる。

本講では人間のこのような発達を、比較行動学的な観点からみることに重点が置かれることになるであろう。また、行動を中心にして人間発達を人間科学として考える考え方についても問題提起をしたい。

専 門 教 育 科 目 (人間基礎科学科 必修)

※開講年度の表示のない学科科目は、すべて本年度(昭和63年度)開講科目

生 物 学 概 論 2単位 [前期]

大 島 康 行

人間はヒトとして生物が共通して持っている生命の諸機構に支えられて生きている。従って、人間科学を学ぶためにはヒトを含めた生物科学の正しい理解と認識を持たなければならない。

この科目は生物科学の各分野に先立ち、生命のしくみの基本的な諸問題について解説し、これらがいかに人間が生きる上に重要であるかを考えていく、プリント、ビデオ等を使用し、講義を進めていきたい。特定の教科書は使用しない。

比 較 形 態 学 2単位 [前期]

山 内 兄 人

哺乳動物はそれぞれ特有の生活があり行動パターンをもつ。その行動は中枢神経系(脳一脊髄)で制御されている。中枢神経系の構造は基本的にはどの動物でも同じであるが、行動様式の違いなどで良く発達している部分と、退化的な部分がみられる。いろいろな動物の神経系の構造と機能を比較し考えていきたい。

行 動 学 概 論 (昭和64年度開講科目) 2単位

春 木 豊

行動は、人間の生命、精神、及び社会性ととともに、人間を考える上での重要な側面である。行動なしには、生命の維持、精神の実現人間関係の活性化は生じ得ない。

このような行動は、意味論、生態論、構造論、機能論、制御論、発達論、検査論に分けることができるが、本講においては、特に構造論、制御論に中心をおいて述べることにする。人間科学としての行動学の理解を計りたい。

自 然 人 類 学 (昭和64年度開講科目) 2単位

北 原 隆

生命の歴史における種としての人類の出現を位置づけてから、ヒト以外の霊長類と人間の間に生じた形態差異を比較検討する。また、現生人類の出現に至ったヒト系統の進化を示す化石人類の資料をもとに、主な進化段階とそれに伴って現れた新行動を述べる。なお、一般生物進化の解明につかわれる進化総合理論の立場から、現在の人類学は、ホミニゼーション(ヒト化)のプロセスをどのように考えるかを講述する。

心 理 学 概 論 2単位 [前期]

浅 井 邦 二

科学としての心理学がいかなるものであるかについて、正しい認識を持つことを講義の

目的としたい。そのために心理学の研究における科学的態度を身につけることを基本とし、人間の行動を対象とした時、「なぜ」に迫る方法論を学ぶことにより、人間理解の学としての心理学へと一歩ずつ近づくことを期待したい。

現代心理学の基礎知識の習得のため、教科書として『現代心理学入門（本明寛他著）』実務教育出版を使用する。

なお講義の最初の時間に講義の日程、成績の評価方法などを発表する。

社会学概論 2単位 [前期]

柿崎 京一

社会学の研究対象は、社会生活を営んでいる、いわば「社会の中の人間」である。すなわち多くの人びとと多面的に関係をもって行動している生活主体としての人間ということである。本講義では、この人間の社会行動を基軸として、社会的相互作用・社会関係、社会的役割と地位、社会集合と組織および社会規範と社会的エントロピーなど研究の主要な分野における社会学の理論的成果を解説し、社会の中の人間について考えてみたい。

社会生命科学（昭和64年度開講科目）2単位

中村 桂子

生命科学は、生物学の基礎研究を進め、人間の生物としての側面を解明していく一方、科学と社会の接点を考えることを特徴としている。具体的には技術を通しての社会への影響、科学活動の社会の中での位置づけ、生物学が明らかにしつつある事実と自然観・生命観の関係という三点が課題となる。急速な生物学の進歩に対応して、その社会との接点にも、次々と新しい課題が出てくる。それらをできるだけ適確に捉え、整理する。

統計学概論（昭和64年度開講科目）2単位

嵯峨座 晴夫

全体は、統計調査論と統計解析論からなる。もちろん、統計データの解析手法の解説が中心であるが、講義の前段では、統計データの信頼性の問題について考察する。統計データの利用にあたっては、まずその作成段階における問題点を明らかにし、統計の評価を行うことが絶対に必要であるからである。

演 習 I 4単位

木曜日	第1班	浅井 邦二	中村 桂子	矢野 敬生
	第2班	大島 康行	濱口 晴彦	佐々木正人
金曜日	第3班	春木 豊	臼井 恒夫	山内 兄人
	第4班	吉岡 亨	青柳 肇	池岡 義孝

この演習は、人間基礎科学について総合的に考えてみるためのものである。各班とも人間科学に深くかわりをもっている生命科学、心理・行動科学、社会科学についての専門家から成り立っている。各担当者は、専門の科学の立場から、人間を科学的にみるための

方法や、人間のさまざまな側面を明らかにする。学生は教師とともにこの演習を通じて人間を総合的に理解するための科学である人間科学の特色を創造していく訓練の場としたい。

各班とも学生は40名前後とし、約20名ずつ2組に別れて、1名の担当者につき7～8回ずつ、順次3名の担当者全員について学ぶことになる。

演 習 II (人口移動の研究) (昭和64年度開講科目) 4単位 嵯峨座 晴 夫

人口移動は、広義には地域移動と社会移動(階層移動)の二つを含む。両者はともに、地域社会の変動をもたらす重要な要因である。この演習では、近年急激な都市化の進展をみせた首都圏の近郊地域を事例としてとりあげ、人口移動の実態を調査し、それが地域社会の変動にどのような役割を果たしたかを分析する。

演 習 II (日本の村落) (昭和64年度開講科目) 4単位 柿 崎 京 一

日本社会学の研究史の中でも農村をはじめ、山村・漁村を含む村落社会研究は、その歴史が古く、かつすぐれた研究成果を多くあげている分野の一つである。本演習では、これらの成果及び主としてアジア地域の村落研究に関する文献を紹介する。そのうえで各自が文献を講読・発表する。本演習をととして村落の社会構造、社会変動についての理解を深めると共に、比較社会的視点も加えて日本村落・日本文化の特質について考えることにしたい。

演 習 II (都市の近隣集団) (昭和64年度開講科目) 4単位 臼 井 恒 夫

都市社会は、いうまでもなく多種多様な集団によって構成されている。しかも、産業化・都市化の進行とともに、集団はさらに分化し増大しただけでなく、同時に集団そのものの性格も大きく変化した。本講では、都市の社会集団のなかでとくに地域集団(町内会・自治会・近隣集団など)に焦点をあてて、その構造と機能、および変化の様子などを検討する。テキストや参考文献については教場で指示する。

演 習 II (細胞の構造と機能) (昭和64年度開講科目) 4単位 木 村 一 郎

細胞の構造と機能に関する基礎生物学を、文献の講読・討論を通じて細胞生物学的・生化学的観点から学習する。さらに、バイオテクノロジーを含む現代生物学における細胞生物学の現況についても具体的研究例を文献講読を通じて学習し、併せて科学研究およびその発表などのあり方についても学ぶ。

演 習 II (生物の遺伝機構) (昭和64年度開講科目) 4単位 飯 野 徹 雄

生物の遺伝機構の解明に大きく貢献した研究業績にかかわる論文を選定し、輪読討論方式により、それらの学術上の意義を理解せしめると共に、科学研究における計画の立案、遂行、発表、またそれに対する評価はいかにあるべきかを会得せしめる。

演 習 II (行為の理論) (昭和64年度開講科目) 4 単位

春 木 豊

行動学の一つとしての行為について考える。行為とはいってもなく「行ない」のことであるが、人間の行為のメカニズムについて、考察することを目的としたい。行為の理論は、今まで哲学や心理学の分野で論じられてきたが、それらの中から材料を選び、学んでゆきたい。

演習の形式や文献は、その都度指示する。

演 習 II (セルフコントロールの理論) (昭和64年度開講科目) 4 単位

根 建 金 男

セルフコントロールの方法のうち、行動論的セルフコントロール、バイオフィードバック、自律訓練法、筋弛緩法など、主要なものについて説明する。なお、セルフコントロールの方法を体験的に理解できるよう、実習もできるだけ多く行いたい。

教科書は使用しない。参考書はその都度指示する。

演 習 II (ノンバーバル行動の理論) (昭和64年度開講科目) 4 単位

鈴 木 晶 夫

人間や動物は、意識的・無意識的に行動により情報を表出し、その行動から情報を解読している。その際、ノンバーバル行動の果す役割は大きい。個々のノンバーバル行動についての研究は比較的行われているが、その割合に比べて総合的研究は少ない。代表的な研究論文の講読だけでなく、観察や実験を通じて、ノンバーバル行動をさまざまな角度から実習し、日常生活におけるノンバーバル行動の意義について考えたい。

演 習 II (達成動機) (昭和64年度開講科目) 4 単位

青 柳 肇

達成動機とは、目標に高い基準を設定し、独自の方法でそれをやりとげようとする動機といえることができる。ここでは、主として達成動機に関する国内外の雑誌や文献を読み、理解を深める。更に、実際に実験を行なって、達成動機に関する研究法も学ぶ。

教科書、参考書、文献については、授業でその都度指示する。

演 習 II (脳神経科学) (昭和64年度開講科目) 4 単位

濱 清

- ① 興奮伝導 (形態, 生理, 生化, 病因)
- ② 興奮の伝達 (電気および化学シナプスの構造, 細胞化学, 生化, 生理, 病因)
- ③ 脳神経系発生 (形態形成, 機能発現に関与する分子機構)
- ④ 感覚器 (構造, 受容とトランスダクションの分子機構)
- ⑤ 行動

などについての新着および関連文献の検討

専 門 教 育 科 目 (人間基礎科学科 選択)

※開講年度の表示のない学科科目は、すべて本年度(昭和63年度)開講科目

細胞学及び実習 3単位

木 村 一 郎

臨海実験所に合宿しての講義及び実習とする。後期授業終了後、春季休業開始時に集中して行う。

海産動物の生きた細胞を用いての細胞学的及び発生学的な観察に主眼をおき、それに関連した講義を併せて行う。極めてダイナミックな姿を我々に見せてくれる生きた細胞・胚を観察することによって、通常の学習ではややもすると“死”物学となりがちなものを、“生”物学として実感してもらうことを大きな目的としている。

具体的には、主としてウニ及びヒトデを材料にして、配偶子細胞や受精の観察と実験、正常発生の観察、実験発生学的操作による観察、などを行う予定である。

組織学及び実習 3単位 [前期]

山 内 兄 人

動物の身体を構成する組織は作られてしまったら永久にそのままではなく絶えず新しい細胞が供給されている。その変化はホルモンや神経などいろいろな因子により影響を受ける。それらを考えながら動物(ラット、ヒト)の組織を考えていきたい。実習は正常、またはホルモン投与後のラット組織標本の作成、変化の観察。脳の凍結組織標本を作成し内部を調べる。自分の血液組織観察等である。

なお、組織学及び実習と生理学及び実習は、共通の講義および実習を行う。

生理学及び実習 3単位 [前期]

吉 岡 亨

本科目においては、生理学全般を理解する上に於て欠くことの出来ない基礎的な概念を習得せしめる事に重点を置く。したがって講義の内容は、ポテンシャルとか、緩衝といった物理化学の概念や、不可逆過程の熱力学の説明にも充分な時間をかける。更に物質の輸送、興奮、受容、収縮など一般生理学の中心課題を基にして、生命現象をマクロな捉え方から次第に細胞、分子へと掘り下げてゆく。実習ではヒトを対象としたものを重点的に行う。

遺伝学及び実習(昭和64年度開講科目) 6単位

飯 野 徹 雄

遺伝学発展の歴史に沿って、遺伝子概念の成立、遺伝的変異の機構、遺伝情報系の实体、遺伝子発現の制御機構等の基本的知識を論説し、それらの基礎の上に、遺伝学的にみた生物進化、ヒトの遺伝と変異を講述する。

実習においては、遺伝学的分析法の基本である遺伝子の分離検定法、突然変異選抜法、遺伝子クローン化の基礎技術を習得せしめる。

脳神経科学及び実習 3単位 [前期]

濱 清

講 義

- ① 脳神経系解剖学および組織学
- ② 感覚器学＝視覚器、聴覚および平衡感覚受容器、味覚器、嗅覚器、皮膚知覚器＝の構造機能関連

実 習

- ① 神経組織の電顕所見解説
- ② 脳解剖実習見学（出来たら）

[教科書]：神経解剖学教科書（特定しない）

『神経組織の電顕図譜』（Peter, Palay, Webster, Saunders.）

情報生理学及び実習（昭和64年度開講科目）3単位

吉 岡 亨

ヒトが生命を任うするためには、摂食・生殖などの諸行動をつつがなく行わなければならない。ヒトはこのために外界の状況を観察し適切な対応を行っている。そのために体内には電気的情報（神経インパルス）と物質的情報（ホルモン）の伝達経路がすき間なく配置されている。ここでは電気的・物質的情報の伝達の機構に焦点を絞って解説すると同時に、実習を通して、それらの現象を体験的に理解させ、ヒト体内の情報伝達システムを総合的に理解させる。

生態学及び実習（昭和64年度開講科目）3単位

大 島 康 行

ヒトも含め生物は個体として、また集団としてそれぞれの環境の中で生活し、また、その生活を通して環境を変えていく。野外の生物、生物集団は一見混沌としているようであるが、実は複雑な要因がからまりあった見事な法則性の中で秩序ある生活をしている。この野外における生物の基本的諸問題を、個体、個体群、種社会、群集について重要と思われるいくつかについて講義し、いかに見事なしくみで生活が維持されているかを理解していきたい。

実習は講義と連携させ、基礎的実験をおこなう、実習は野外で一部集中して実施することもある。生態学を受講する学生は、一般教育科目「生態系科学」、専門教育科目「生物学概論」を履修しておくことが望ましい。教科書は使用しない。

生 物 工 学（昭和64年度開講科目）2単位

飯 野 徹 雄

生物工学の基本技術である、細胞培養、細胞融合、組換え DNA、バイオリアクター等の諸技術について、その成立の背景と技術の内容を通説した上で、生物工学活用の現状

を、生物生産、育種、難病治療等の各種応用分野にわたって講述する。

比較行動学 2単位 [前期]

青 木 清

ヒトも含めた動物の行動発現と行動の特徴について、神経生理学的方法による成果について述べる。①動物における本能行動、②学習、③行動を制御する中枢神経系、④行動の発達と脳、⑤神経生理学に基づいた本能論などを述べる。これら課題については最近の研究成果にもとづいて述べるが、本講義の目的は人間の自然科学的理解を得ることにある。

生 理 心 理 学 (昭和64年度開講科目) 2単位

山 崎 勝 男

酒を飲めば朗らかになり、脳が傷つけば、一定の精神機能が損われる。この事象は、体(脳)に変化が起きて、その結果、心の変化が生じたものと、考えることができる。ここでは、動物を用いた脳の刺激・破壊実験から導き出された、脳と行動との関係、および人間の臨床観察から得られてきた、脳と心との関係を概説する。

行 動 理 論 2単位 [前期]

根 建 金 男

行動変容の背景となっている行動理論のうち、主要なものを、すなわち、ワトソンの行動主義、ガスリー、トールマン、ハル、スキナーの新行動主義、バンドッラの社会的学習理論、マイケンバウムの認知的行動変容などについて解説する。また、エリスの論理-情動療法、ベックの認知療法は、行動変容の枠を離れたものという見方もあるが、行動変容の現状を考える上で極めて重要なので、これらについてもとりあげる。受講者が行動変容の考え方を、日常に生かしていけるようにしたい。

[参考書]: 佐藤方哉著 『行動理論への招待』 (大修館書店)

行動学研究法及び実習 3単位 [前期]

鈴 木 晶 夫

心理学研究法及び実習 3単位 [前期]

佐々木 正 人

心理学的測定法及び実習 3単位 [前期]

浅 井 邦 二

心理学的測定法は、心理学研究及び行動学研究に従事する者にとって事象の特性を数量化するのに不可欠な条件である。故に、すべての学生諸君に基本を取得して欲しい方法である。その知識を実際に生かし、心理学研究、行動学研究それぞれの実験実習を通じて、心理的、行動的側面の測定とはいかなるものかを体験してもらう。実験後はレポート提出を義務づける。実験実習での1回の欠席は、自他ともに多大な影響を及ぼすので、各自の自覚を望む。

非 言 語 行 動 論 (昭和64年度開講科目) 2単位

鈴 木 晶 夫

非言語的情報伝達手段として代表的チャネルに、表情表出、視線行動、身振り(ジェスチャー)、空間行動などがあげられる。これまでの研究から導き出された事実を中心に講

義し、非言語的行動を通じて、動物や人間がどのようにして他者とコミュニケーションを形成し、維持し、発展させているのかについて考えたい。

認知発達理論（昭和64年度開講科目）2単位

佐々木 正人

従来の認識の発達理論にはひとつの理論的枠組みがある。そこでは認識能力を脱文脈化した記号の操作と考えている。ピアジェ、ウェルナー・カプランらの発達理論はこのようなパラダイムを代表している。講義ではこれらの理論を批判的に吟味するなかで「場」、「文脈」、「からだ」の在る発達理論を展望したい。ワロン、ギブソン、バウアー、ヴィゴツキーらの主張について議論する。

動機づけ理論 2単位 〔前期〕

宮本 美沙子

人間の欲求・動機・動機づけの概念、動機づけの発達の様相、動機づけの測定法などに詳しく述べる。特に、内発的動機づけ、達成動機、原因認知（統制の位置、原因帰属、自己原因性）、無力感の問題について詳述する予定である。

社会学理論史（昭和64年度開講科目）2単位

濱口 晴彦

現代社会学理論を、

1. 社会学思想の形成
2. 社会学理論の特徴

の2つの観点から講述する。

〔参考書〕：『社会学講義』（早大出版部刊）

社会集団論（昭和64年度開講科目）4単位

矢野 敬生

社会は単なる個人の集まりではなく、ひとは互いに依存しあい、なんらかの関係を持ちながら生きている。こうした営みを集団性の視座からとらえる。そこで、社会学の「集団論」のみならず、社会人類学の「社会組織論」の成果をふまえて講義をすすめる。基本的には、時間的歴史的展望を縦軸に、横軸には各レベルに対応した特徴的な集団である親族集団、村落共同体、機能的集団に焦点をあて、現実の諸社会のもつ多様性の把握を通じて、社会集団の諸相を明らかにしたい。

家族社会学及び実習 3単位 〔前期〕

池岡 義孝

家族の変動と多様性が論じられる現在、家族研究にもそれに答える新たな視点が求められている。そのためには、現時点までの家族社会学の成果を再検討する作業が必要であろう。本講では、これまで家族社会学がいかなる視点に立ち、どのような方法と理論を用いて家族を研究し、いかなる成果をあげてきたかを検討する。その上に立って新たな視点やこれからの課題を提起し、その有効性を特定の地域社会を対象にした家族変動にかんする

調査実習で検証することにした。

地域社会学及び実習 3単位 [前期]

柿崎 京一

地域社会の事例として日本の村落社会をとりあげ、近代以降における変動過程について、既存の研究成果をふまえつつ、実証的資料にもとづいて考察する。同時に、地域計画や地域開発、環境問題など村落の直面している諸問題などを通じて、人間生活にとっての「地域」の意味について考える。講義と並行して実態調査の方法について解説し、各自の興味あるテーマにもとづいて現地調査を含めた社会調査実習を行う。

都市社会学及び実習 3単位 [前期]

白井 恒夫

簡単な調査実習ないしは既存資料の二次的分析をおこなうことを念頭において、都市社会学に関連した研究テーマを各自の問題関心のなかから引き出したい。そのために、参加者の研究報告と討論を中心にして、具体的なテーマ設定に結びつけていく。したがって、研究テーマ、調査地、調査方法などは未定であるが、こうした集中的な作業をつうじて、文献の読解力、集計・分析・報告の能力を身につけてもらいたい。

社会福祉論Ⅰ 2単位 [後期]

児玉 幹夫

Ⅰでは、社会福祉の思想の展開と制度の発達を歴史的にあとづけ、次いで現代の社会福祉の主体・対象・方法を体系づけ、さらに福祉の諸分野にわたって理論的講述を行い、この方面の知識を整理し教授する。

社会福祉論Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位

児玉 幹夫

Ⅱでは、社会福祉実践の科学的発展をめざし、対象の客観的把握のための社会福祉調査、並びにケースワーク、グループワーク、コミュニティワークなど、社会福祉の専門技術について、その方法と実際を教授する。

社会病理学（昭和64年度開講科目）2単位

白井 恒夫

社会病理学は、人間の行為、生活、社会集団に生じた障害を社会学的手法を用いて分析、検討し、その障害を取り除いて安定した社会生活を実現する方策を探究する。その意味で社会病理学は、社会学のなかでもっとも実践的志向の強い領域であるといえる。

本講では、社会病理学への理解をえるために、その形成と発展の歴史をそのときどきの社会的背景と照らしあわせながらあとづけていく。テキスト、参考文献については教場で指示する。

人 口 学（老年学を含む）4単位

嵯峨座 晴夫

人口学（demography）は、主として、人間の集合体である人口に変動をもたらす出生、

死亡、移動などの諸要因の分析と、人口と社会経済的変数との相互関係を解明することを目的としている。体系化された人口分析の方法、および応用としての人口研究の理論を紹介するとともに、社会老年学の立場から、高齢化社会における高齢者の社会的役割と扶養の問題について考察を加える。

特 論 I (現代免疫学) 2単位 [前期]

小 野 魁

生体が自己にとって有害なもの、無用なものを適切に処理して生体の恒常性を維持する仕組みを生体防御という。その最も進化した形が脊椎動物の獲得した“免疫”と呼ばれる機構であり、その特長は ①特異性、②記憶、③自己と非自己の識別、という点にある。感染防御の面からみると、一度免疫が成立すると“二度と同じ病気にかからない”ということになる。

近年の免疫学の進歩はこの機構を細胞レベル、分子レベルで理解することを可能にして来た。病気の予防、治療のための基礎としてのみならず、生物の認識機構の面からも興味の持たれるところである。

特 論 II (社会福祉調査) (昭和64年度開講科目) 2単位

外 木 典 夫

社会福祉調査は、ケース・ワークやグループ・ワークと異なり、人々の問題解決に直接たずさわる方法ではなく、社会福祉に必要な資料を提供し、事業の理論化をはかり、将来の予測をも行う役割を負う。この調査は、個人、集団、地域社会のニーズ測定や充足の度合いの検証に向けられてきた。この講義では、社会福祉調査の方法についての基本的な理解を深めるようにつとめたい。

専 門 教 育 科 目 (人間健康科学科 必修)

※開講年度の表示のない学科目は、すべて本年度(昭和63年度)開講科目

福 祉 援 助 論 2単位 [前期]

岡 野 静 二

欧米における社会福祉の発達と、その日本への影響について考える。またそれとは別に、わが国における福祉の行動の歴史的展開を調べる。そして日本の精神的風土の中で、なにが福祉援助を、基本的に支えるものなのかを探りたい。そこで次の項目にしたがって授業をすすめることにする。

(1)欧米における福祉援助とそれを支える社会 (2)日本における福祉援助とそれを支える思想と社会 (3)今後の課題

地 域 福 祉 論 2単位 [後期]

岡 野 静 二

現代社会における地域福祉の重要性を、説明しつつ、福祉が地域社会形成の基本的条件であることを明らかにする。そこで次の項目の順序で、講義をすすめる。地域社会とボランティア活動。地域社会と小・中学生問題。地域社会と青年問題。地域社会と高令者問題。以上の講義には、実践的な問題や課題を、多く提出することにする。結局、地域福祉の課題として、なにができるか、どこまでできるかを、じっくり考えることがねらいである。

臨 床 心 理 学 2単位 [前期]

門 前 進

臨床心理学は心理学の現実への応用に重点がおかれている。

内容として大きくわけると、人格理解、心理療法ということになる。しかし、人格理解においても心理療法を基礎とした人格理解の理論や、目の前の人間の行動や、心理検査を通して理解するといった理解の仕方がある。また、心理療法においても、さまざまな人格理解を基礎にした技法が現在用いられている。さらに、心理療法の対象に関してもさまざまな人がいる。例えば、子どもから老人。また、健康的な人の悩み相談から、精神的に明らかに病気であるという人までいる。

このようにさまざまな領域が考えられるが、これらについて全般的に話していくつもりである。

人 間 関 係 論 I (昭和64年度開講科目) 2単位

安 藤 喜久雄

“人間関係論”は組織と個人を中心に展開されることが多い。それゆえ、伝統的ないし古典的組織論から現代の組織論に至るまで組織の系譜をたどりながら、その中で組

織と個人の関係をどのようにみているかを考察したい。

人間関係論Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位

斉 藤 勇

人間関係の心理学的アプローチを中心に講義する。講義内容は次の通りであるが、可能な限り、実際の調査や実験も実施していく予定である。

- ・ 人間関係の発達
- ・ 人間関係の認知
- ・ 人間関係と感情
- ・ 対人間の相互作用
- ・ 集団の中の人間関係
- ・ 組織の中の人間関係
- ・ 人間関係を知る研究方法

精神身体医学Ⅱ 2単位 〔後期〕

中 村 陸 郎

精神身体医学は、心身相関の立場から、人間の罹患する疾患、特に心身症について、総合的にその病態を理解し、診療していくことをめざすものである。本講義では、(1)精神身体医学および心身症の概念 (2)心身相関の身体的（生理的）並びに精神的（心理的）メカニズムとその病態 (3)心身症の個々の疾患、特にその発症の機制や治療法などについて講述を行う。

環境心理学Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位

佐 古 順 彦

レストランでの食事、図書館での学習、コンサートでの音楽鑑賞などのように、場所と行動との間には一定の対応関係がみられる。「行動場面」の理論（「生態心理学」）に関するロジャー・バーカーたちの研究について解説する。さらに、身近な行動場面の自然観察をおこない、場面のダイナミクスを分析し、類似の場面をデザインするためのストラテジーについて考えてみる。

運動・保健概論 2単位 〔前期〕

宮 崎 正 己

健康についての定義はWHOの定義にあるが、あまり現実的ではない。それよりも健康はたくましさをもった面も存在している。これは、身体的な面ばかりでなく、精神的な面にもあてはまる。健康の維持・増進をはかるためには、身体的な面に関していえば、健康を支える能力を強化することである。

本講義では、大筋群や小筋群活動を伴う運動（エクササイズ）と健康のポジティブな側面について、今まで得られた知見をもとに、すすめていく予定である。

レクリエーション論（昭和64年度開講科目）2単位

吉 村 正

レクリエーションとは何か。なぜ必要か。学校や職場、あるいは家庭において、健康的な生活を営むために必要なレクリエーション活動とはどのようなことか。

レクリエーションを様々な分野から捉え、それらを講義する。

演 習 I（比較文化論〈祝祭の象徴分析〉）4単位

蔵 持 不三也

祝祭とは民衆文化のいわば総合芸術としてあり、同時に当該社会の構造が端的に現出する場としてもある。本講では、そうした祝祭の在り様やそれを取り巻くもろもろの民俗慣行を我が国とヨーロッパに追い、彼我の人々の心性や社会構造、文化伝統といったものを比較・検証するとともに、祝祭の本質についても新たな観点から迫ってみたい。スライド使用。なお、後期では受講生に直接伝統的な日本文化の一端に触れてもらうため、フィールド・ワークを予定している（調査地：新潟県五十嵐川流域）。

演 習 I（コミュニティ論）4単位

岡 野 静 二

前半では、国や都道府県そして市町村など、行政側がかかえている様々の課題と、民間団体や住民個人がもつ問題点を、できるだけ多く発見する。そして学生諸君自身が、それらの課題や問題の中で、最も重要でありかつ関心のあるものを、研究課題としてしぼる。

後半では、多くの理論研究成果や調査資料を、研究課題の解決に役立てる仕方を学ぶ。そして、福祉行動がコミュニティの中でどのように機能しているかを、理解していく。

演 習 I（精神分析を中心とした心理療法）4単位

門 前 進

実験実習と文献講読を交互に行なっていく。心理療法には実験的な基礎が不必要であるように考えられがちであるが、科学としての基本は大切にすることがある。

実験実習としては、基礎的な心理学実験を行なう。実験を通して実験の方法、データの取り方、データの処理の仕方、処理されたデータの見方などについて学んでいく。各週の演習の時間に実験を行なうが、それについては毎回レポートの提出を要求する。

精神分析はフロイトによって始められたものである。人間は自分の考えることは総べて分かっているという気持ちを持っているが、気付かない意識を持っている。

文献講読としては、ウィニコット『情緒発達の精神分析理論』（岩波学術出版社）を読んでいく。

演 習 I（健康とレクリエーション）4単位

吉 村 正

本演習では、健康・スポーツ・医学・レクリエーションに関することを学習しながら、演習Ⅱへの準備段階として、読書、レジュメ作り、発表の繰り返しを行う。

また、夏季には、Outdoor Recreation あるいは Therapeutic Recreation Services. と

して、都会の雑踏から離れ、自然に触れ、Re-creation（再創造）活動を実際に行いながら、健康やレクリエーションについて考える。

演 習 I（環境認知と行動）4単位

佐 古 順 彦

空間行動に関する研究の概観を提供する。

(1)環境内の定位と移動のための空間情報を処理する認知構造の研究について。距離・方向・ルート記憶や地図の利用等の「認知地図」能力を分析する。

(2)日常行動にみられる社会空間図式の研究について。人間が環境のなかにもちこむ心理的な「距離」や「空間」、たとえば、ナワバリ、プライバシー、個人空間などを取り上げて人間行動の空間分析をおこなう。

演 習 I（社会開発論〈地域社会の変動と住民の諸問題〉）4単位

店 田 廣 文

都市化や過疎化に象徴される人口の流動化は社会構造の変動を招き、様々な地域問題を惹起したとされる。しかし例えば都市化は社会解体とよばれるようなマイナスの効果ばかりをもたらす訳でなく、最近の「アーバンイズムの下位文化論」にみられるような積極的な効果をも併せもたらすものであり、地域社会の多面的な分析が必要とされる。本演習ではいくつかの地域社会を対象とし、各人の研究報告や討論をまじえながら、人口の流動化に伴う社会構造の変動と住民の地域生活に生ずる諸問題を網羅的にとりあげ考察しつつ参加者の問題意識を深めていきたい。なお本演習では合宿形式による簡単な調査実習をとりいれる予定である。なお演習参加者は出来る限り社会調査法Ⅰを受講すること。

演 習 I（人間工学〈視覚環境と人間工学〉）4単位

石 田 敏 郎

視覚環境の評価・改善は人間工学にとって重要なテーマの一つである。本演習では人間工学を学ぶための基礎的知識を習得し、さらに視環境の変化が人間の作業遂行に如何なる影響を及ぼすかを学ぶ事を目的とする。人間の反応時間、人体計測等、人間工学の基本的項目の実習とそのデータ解析、視野測定、照明と視力等についての演習を行う。授業は実習を主体とし、受講者の発表を中心として進める予定である。

教科書 別途指定

演 習 I（人間工学〈労働環境と人間〉）4単位

野 呂 影 勇

労働環境に関する人間工学の基礎的な測定の方法について述べる。すなわち人間の入・出特性の測定として反応時間、誤りの測定と解析について演習を行う。人体計測についての演習とデータの解析そして運動の測定・解析および視覚に関する測定と解析を行う。最後に労働環境での基本となる施設すなわち、通路、棚、階段、椅子と机についての演習を行う。

〔教科書〕：野呂影勇著『調査実験人間工学』（日刊工業新聞社1984）

演 習 I（カウンセリングの問題）4単位

菅 野 純

この演習では次の2つの事を目的とする。

1. 心理療法研究に必要な方法論の実習
2. Rogers, C.によって提唱されたカウンセリングの理論、歴史、方法及び、それと関連のある遊戯療法、エンカウンターグループ、箱庭療法、芸術療法などについて、文献研究、実習、事例研究を行いながら学んでいく。

演 習 I（教育工学〈教育心理学と教育工学〉）4単位

野 嶋 栄一郎

教育工学の主たる研究領域は、教授＝学習＝評価に関わる内的過程と外的環境及びそれらの交互作用の周辺にある。本演習はこのうちで、教授＝学習過程の成果の測定・評価に関わる方法論について学習する。この分野の方法論は主として、教育心理学の領域から派生しており、結果的に、心理学的測定法から教育工学の分野で開発されたデータ解析手法に至るまでを、事例にあたりながら学習することになる。

教科書 別途指定

演 習 I（学校カウンセラー初等・中等教育とカウンセラー）

4単位 小 泉 英 二

この演習では、小学校および中学校において、学校カウンセリングを実施していく場合の基本的な考え方を明らかにすると共に、実践に役立つ技法上の演習をすることを目的とする。たとえば、カウンセリングと教育、児童生徒理解の方法、事例研究の実際、カウンセリングのすすめ方、遊戯療法、箱庭療法、専門機関との連携、相談系の役割などについて、ロールプレイ、見学、討論などの方法を用いて学習する。

演 習 I（バイオエシックス）4単位

木 村 利 人

バイオエシックスの視座からの事例研究（たとえば、遺伝子治療、臓器移植、精神病、死と死の過程などの問題をめぐって）によりバイオエシックスの基礎的理解を深め、その原理を比較法文化的に検討する。ゼミ参加者の問題提起及び発表を中心に学習をすすめ、適宜AV教材の利用及びバイオエシックス関連施設の訪問等も行う。

演 習 I（健康と運動）4単位

宮 崎 正 己

人が身体活動や運動をおこなうための基本的な運動形態やその際に生ずる生理的な反応やその結果引き起こされる疲労に関する問題を取り扱う。

実験的な方法により、解析をおこないながら、演習をおこなっていく予定である。

演 習 I (環境心理学 <社会環境>) 4 単位

相 馬 一 郎

ここでは環境の認知について、それをどのようなかたちで把握できるのかを特に社会的環境を中心にしてとりあげていく。

このため基礎的な評価・手法の学習および、それを実際におこない、結果を処理していくといった実習をおこなう。

演 習 II (比較文化論 <文化の位相>) (昭和64年度開講科目) 4 単位

蔵 持 不三也

本講は演習 I の受講生が収集した調査資料を分析・検討し、これを基礎作業として新潟県五十嵐川流域(予定)の村落調査を行う。そこでは社会構造(生業・労働・親縁関係・交通など)と生活構造(祝祭・物流・生死観・暦など)とが主たる対象となるが、この一連の作業によって日本文化の特徴の一端を探り、ヨーロッパの村落文化との差異、およびそうした差異を生じさせた要因といったものを比較してみたい。また、フィールド・ワークで収集した各種の資料のドキュメンテーションや、調査報告書の作成も予定されている。

演 習 II (高齢者を含む福祉援助) (昭和64年度開講科目) 4 単位

岡 野 静 二

まず、高齢者問題が、福祉援助として、いかに重要な機能であるかを理解する。そのために、それに関する内外の文献をしらべ、同時に身近かな高齢者達のところへでかけ、調査をすることにする。そのことによって、問題点や課題が、各人の中にたしかなものとして生れたら、日本における高齢者問題を、日本の経済的文化的基盤の上で把えることに努力したい。そして、ささやかな個人の行動と、組織の力とで、なにができるかを考える。

演 習 II (催眠を中心とした心理療法) (昭和64年度開講科目) 4 単位

門 前 進

文献講読と臨床実習を交互に行なっていく。

文献講読としては、催眠療法のための基礎研究としての催眠現象に関する論文を各自が探してきて、それを紹介していく。催眠に関係するものには、リラックス、イメージ、暗示現象などが含まれる。

臨床実習としては、リラクセーション、暗示行動、イメージ、カウンセリングの方法などについて実習を行なう。

演 習 II (健康とレクリエーション) (昭和64年度開講科目) 4 単位

吉 村 正

本演習では、下記の4項目について学習する。

1. Introduction to Recreation では、Rec とは何か、なぜ必要か、そこに学問はあるのかなどを学習する。
2. Recreation Education では、世界の Rec 教育を比較学習し、日本ではどうあるべきかを考える。
3. Community Recreation では、Rec 活動やレジャー活動、あるいは Rec 管理学などについて学習する。
4. Field Work in Recreation では、個々の能力や特徴を活かし、大学病院、私立病院、ストレス研究所、YMCA、レクリエーション公園、リハビリテーションセンターなどの健康に関する施設で実地研修する。

演 習 II (発達と環境) (昭和64年度開講科目) 4 単位

有機体発達論の立場から環境認知と環境評価の実験・実習を行う。環境を物理的、社会的、社会文化的なものに分け、認知や評価の発達差と環境への慣れによる違いを明らかにする。具体的には、キャンパスや都市の認知地図の作成と分析、町並みや自然景観の評価、アメニティの概念の分析、PDM による新入生の対人関係網拡大過程の分析、サークルの雰囲気や学風の SD 法による分析、規則や伝統・習慣などが人間行動に及ぼす影響などを検討する。

演 習 II (社会開発論〈地域社会における住民運動〉) (昭和64年度開講科目)

4 単位 店 田 廣 文

住民運動はひと頃比べると社会の耳目を集めるといった点では大きく後退した感はない。しかしこれは地域社会に運動の対象となりうる問題等が減少したのではなく、従来の公害などの謂わば直接的な生活妨害問題といった狭い領域からより対象が広がり運動そのものが多様化し質的变化をとげたためといえよう。本演習では「演習 I」をふまえて社会開発に関わる住民運動をテーマとして取りあげ特定の地域社会を対象として演習を運営したい。

演 習 II (人間工学〈視覚的疲労と動作〉) (昭和64年度開講科目) 4 単位

石 田 敏 郎

オフィスオートメーション(OA)の発展に伴い、事務所では、VDT作業など、視覚情報処理作業が増大してきた。その結果、視覚的疲労や、局所筋負担などが、新たな産業疲労として、人間工学の重要な課題となっている。本演習では、この問題を中心として、疲労に関する各種の評価法及び疲労とヒューマンエラーの関係などについて実験を通して学ぶ。

演 習 II (人間工学〈労働環境と人間〉)(昭和64年度開講科目) 4単位

野 呂 影 勇

作業管理についての演習を立位と座位姿勢の労働を例にとり基本的な測定を行う。次にオフィスのワークステーションおよびキャッシュレジスターについて装置とオペレータの関係を生理、感覚、運動、自覚的疲労などについて測定し得られたデータから労働環境の総合的な理解をする。ついで職場の環境の測定とくに照明について測定と評価の方法について演習を行う。商品、環境などの人間工学的デザインについて演習を行う。最後に健康管理とくにヘルスチェックの実施法と保健婦・医師との関係について事例研究を行う。

教材 別途作成したものを用いる。

演 習 II (人間行動と環境(医))(昭和64年度開講科目) 4単位

黒 田 勲

人間行動評価のための各種パラメータの測定法、評価法、その意義付けについて演習する。

各種作業環境下における人間行動の定量化、情報処理を含めたワークロードの評価、タスクの流れの解析と評価、人的信頼性の定量化と評価とその実用的適用法について演習を行なう。

演 習 II (学校カウンセリング―高等教育とカウンセリング―)

(昭和64年度開講科目) 4単位 小 泉 英 二

この演習では、主として高等学校および大学において、カウンセリングや学生相談を実施していく場合の基本的な考え方を明らかにすると共に、実践に役立つ技法上の演習をすることを目的とする。たとえば、カウンセリングと教育、カウンセリングのすすめ方、事例研究の実際、グループカウンセリング、相談室の運営、専門機関との連携などについて、ロールプレイ、テープ聴取・見学・討論などの方法を用いて学習する。

演 習 II (教育学〈教授法と教育学〉)(昭和64年度開講科目) 4単位

野 嶋 栄一郎

教育学の主たる研究領域は、教授＝学習＝評価に関わる内的過程と外的環境及びそれらの交互作用の周辺にある。本演習はこの中で、教授＝学習過程の制御に関わる理論の学習を中心とする。最近における教え、学ぶ過程に関する研究は、大きくわけて認知心理学の系譜と教育学の系譜を中心に展開されているため、この両者を学習する。学習の最終目標を、特定の教育目標に基く学習プログラムの試作に置く。

教科書 別途指定

演 習 II (行動療法) (昭和64年度開講科目) 4 単位

坂 野 雄 二

「行動療法研究」誌, “Behavior Therapy” 誌, “Behaviour Research and Therapy” 誌に発表された論文や症例報告を中心にして, 行動療法の実際について, 実験臨床とケーススタディの両面から演習を行う。「行動療法Ⅰ」および「行動療法Ⅱ」において学習した基礎的事項を実際の臨床場面において応用できるよう学習を行う。

演 習 II (人間の機能の測定法) (昭和64年度開講科目) 4 単位 宮 崎 正 己

本演習では, 人間の機能を理解するために, 反応時間, 反射応答など筋や関節機能の分析や身体に及ぼす外力の分析などの実験実習や文献研究を通しておこなおうとするものである。

演 習 II (環境心理学〈教育環境〉) (昭和64年度開講科目) 4 単位

相 馬 一 郎

教育環境を中心にとりあげて(実習を含む)いく, 教育環境といわれるものには, 地域・家庭・学校環境が含まれる。したがって, その対象はかなり広範囲にわたる。

どの領域を中心にするかは, 各自の選択により決ってくるが, いずれにしろ, 実際に調査なり, 実験なりをやる必要がある。

専 門 教 育 科 目 (人間健康科学科 選択)

※開講年度の表示のない学科目は、すべて本年度(昭和63年度)開講科目

産業・職業社会学 4単位

安 藤 喜久雄

産業・職業社会学の諸分野——企業組織、労働者意識、労働組合、労使関係、産業と社会、職業など——について、これまでの研究成果をふまえながら、各々問題の現状と課題について講述する。これらを通じて現代産業社会における人間の生き方を探ってみたい。

〔教科書〕：『産業社会学入門』本間康平他著（有斐閣新書）有斐閣刊。

生活構造論Ⅰ 2単位 [後期]

池 岡 義 孝

戦後の社会政策学的な貧困研究を出発点とする生活構造研究は、その後家族社会学、都市社会学など多様な研究領域に適用され成果をあげてきた。さらに最近では、ライフスタイル研究、社会的ネットワーク研究、ライフコース研究など、生活構造論と連動する研究領域が新たに注目を集めている。本講では、生活構造論の主要な系譜を紹介するとともに、研究の新たな展開についても取り上げ、人間の発達を生活構造の変動過程としてとらえる視点を提示したい。

生活構造論Ⅱ(昭和64年度開講科目) 2単位

柿 崎 京 一

「生活構造論Ⅰ」の講義をうけて本講義では、「環境と人間」の問題を重点的にとりあげる。環境、とりわけ自然と社会環境の総体としての環境が人間の生存・生活様式に特有のかかわりのあることが自覚され、問題提起されるようになったのは、比較的近年になってからのことである。本講義では、現代の環境問題の特質について社会学および関連諸科学の知見を動員して考えてみたい。

社会運動論(昭和64年度開講科目) 2単位

濱 口 晴 彦

社会運動を社会問題解決の集会的志向として、それらの事例をふまえながら講述する。

1. 社会運動と近代化
2. 社会運動の構造化
3. 社会運動の組織化

〔教科書〕：『社会運動の組織化』(早大出版部刊)

社会意識論(昭和64年度開講科目) 2単位

北村 實

社会意識とは、ある特定の社会に典型的な見解、信念、理論、価値、規範などの総称であって、明確なイデオロギーの形態をとるものから、漠然とした社会的感情・気分として表象されるような社会心理である。したがって、どの側面を取り上げるかによって、かなりの違いが生じるが、この講義では、主として道徳的価値意識に焦点をしばって論じてみたい。

社会調査法Ⅰ 2単位 [前期]

池岡 義孝

社会調査は、特定の社会現象を解明するために定められたデータ収集と分析の科学的な方法である。本講では社会調査の歴史的展開をあとづけ、その技法をデータ収集とデータ分析の両面から説明し、さらにさまざまな領域で行われている社会調査の具体例を紹介することにしたい。なお、本講では講義だけでなく、質問票を作成しての簡単な調査の実施や、既存の調査によって得られたデータの2次的な分析など、実際的な作業も併せて行なう予定である。

社会調査法Ⅱ(昭和64年度開講科目) 2単位

野嶋 栄一郎

(1)測定の基本理論、(2)測定の信頼性と妥当性、(3)尺度構成(順序尺度、間隔尺度、比例尺度、SD法、一対比較法)、(4)態度測定法(サーストンの態度測定法、リッカートの態度測定法、ガットマンの態度測定法)、(5)標本抽出と標本調査法、(6)データ解析(重回帰分析、判別分析、因子分析、数量化理論)、(7)行動科学における理論化とモデル構成のうち、4～5個のテーマをとりあげ解説する。

使用教科書 別途指定

[参考書]:『行動科学の方法』池田 央著(東大出版会)

社会開発論(昭和64年度開講科目) 2単位

店田 廣文

社会開発は経済開発重視の政策への対抗的な概念として積極的に唱えられてきたもので、社会開発そのものは一般的には生活環境の整備、住宅、保健・医療・衛生や教育・文化など広義の社会の福祉水準向上や人間の能力向上を目的とするものである。この講義では社会開発の理論と実際の開発過程について、住民参加の問題や社会開発のための認識・予測・評価・計画に関わる社会指標の考え方もとり入れながら、論じていくことにしたい。

コミュニケーション論 2単位 [後期]

白井恒夫

コミュニケーションといえば、通常それは思想の伝達ないし交換を意味し、あるいは思想の交換にもとづき成立する一定の社会関係を意味している。したがって社会学的立場からのアプローチでは、記号過程論よりも社会関係論としてのコミュニケーション論に比重がおかれることになる。本講では、「地域社会の変容とコミュニケーション」というテーマを設定して、現代の地域社会をとりまくさまざまなコミュニケーション状況に言及してみたい。

余暇論(昭和64年度開講科目) 2単位

長田攻一

残余的な意味合いを含む日本語の「余暇」の概念も、近代化、都市化、大衆化、脱工業化などと呼ばれる社会の歴史的变化とともに、仕事、家族、教育、文化、階級などとの関連の中で再規定を余儀なくされている。このような「現代社会における余暇」の問題を、超歴史的な「遊び」の概念や歴史的な「スコーレ」の概念、さらには新たな人間観、価値観との関連に注目しながら、現代人および現代社会の意味付与の観点から考察する。

教育心理学Ⅱ(昭和64年度開講科目) 2単位

野嶋栄一郎

(1)学習の理論(学習とは何か、人間の情報処理、学習に影響する心理的要因、学習と環境、学習と個人差)、(2)教授=学習過程の理論(プログラミングの理論、授業のモデル、教授=学習システム)、(3)児童生徒理解の理論(つまずきと学習、動機づけ、言語発達、認知発達、社会的発達)、(4)教育目標と評価の理論(教育目標の分類学、形成的評価他)について講義する。

使用教科書 別途指定

[参考書]:『授業改革事典』第1巻(第一法規出版)

環境心理学Ⅰ 2単位 [前期]

相馬一郎

環境と人間の係りあいを中心として述べる。ここでは、環境心理学の基礎的なことを、まずとりあげる。

環境の認知の仕方、環境心理学の考え方、認知と行動などが主なものである。

環境は大別して物理的・自然的環境と社会的環境があるが、その中での人間行動がどうなのか、といったことからみていくことになる。

造形心理学 2単位 [後期]

相馬一郎

人間は周囲から情報をとり入れ、判断・評価をし行動しているといつてよからう。造形心理学では、特に視覚的な側面に重点をおき、物のみえ方・感じ方・評価といったことを取りあげる。

対象をどうみるか、どう評価するかということはデザインの問題とも密接に関連する。
ここではこれらの問題にも関連づけていくつもりである。

組 織 心 理 学 2 単位 [後期]

橋 本 仁 司

集団は自然発生的なものである。それに対して組織は初めから人工的な仕組みである。この二重の規制の下で成人の社会生活は進行する。このことに着目しながら解説を進める。

集団や組織という人間的环境の中で人間がどのように思考し、感じ、行動するかについての多くの事実が知られ、それをどのように解釈すべきかの諸説が提唱されている。それらを整理することによって人間的环境の典型の一つである組織の中での人間のあり方を考えてみる。これが本講のテーマである。

人間行動と環境(医)Ⅰ 2 単位 [後期]

黒 田 勲

人間が置かれた生活環境について、異常環境下における人間行動から逆に地上環境での行動に与える基本的原理を考えてみる。

酸素および圧力についての地球史的観点から生物行動の推移について検討する。空間および時間環境については、リズム、時差、単調の問題、温度、湿度の特殊作業環境、重力および加速度に関する生体反応、光、騒音、衝撃、振動等の物理環境下での人間行動、放射能、一般の中毒物質についての行動変容とパフォーマンスの限界、さらに人間社会環境条件が行動に及ぼす影響の原則について講義する。

人間行動と環境(医)Ⅱ(昭和64年度開講科目) 2 単位

黒 田 勲

生活環境における健康、作業環境におけるパフォーマンスに影響する因子について、仕事、仕事環境、人間関係、これらの管理を含めた外的要因、心理的および生理的ストレス、個人特性による内的要因、人間—機械インターフェイス、自動化等、総合的観点から検討を加える。さらに緊急事態、強度ストレス環境、航空宇宙環境等の特異環境における人間行動を含めて講義する。

心理検査法Ⅰ 2 単位 [後期]

富 田 正 利

人格の評価法として最も一般的な質問紙法について概観し、その代表的なものについて、体験を通して理解を図る。質問紙法とは人格に関わりのある、人間の行動や考えなどの叙述の目録を作り、これが個人に該当するかどうかをチェックさせることによって人格を知ろうとする方法であり、ここでは MMPI、CPI などを取り上げる。

心理検査法Ⅱ(昭和64年度開講科目) 2 単位

富 田 正 利

質問紙法に対置する人格評価法として広く利用されている、ロールシャッハ、TAT などの投影法について概説し、2、3の方法について実習をまじえて紹介する。投影法は多

義的な刺激に対する反応を、身につけた分類法の知識に照らして分析せねばならないので、その実施に当たって既にその方法に通暁していなくてはならない。したがって、実習がかなりの部分を占めるであろう。

行動検査法 2単位 [後期]

坂野 雄二

人間の行動や情動（生理的反応を含む）を客観的に査定するための方法論や実験計画法、統計的処理等について、その基礎理論と実際について概説を行う。また、代表的な行動検査法に関しては、その実施と評価の方法について実習も併わせ行いたい。テキスト等は追って連絡する。

行動療法 I 2単位 [前期]

坂野 雄二

学習心理学の原理を人間の情動や行動の変容に応用した治療技法体系が行動療法である。本講では、行動療法の原理、歴史、代表的な技法について概説を行い、行動療法の概略を把握するとともに、行動療法による臨床の基礎的な知識を習得する。使用する教科書および参考書は追って連絡する。

行動療法 II（昭和64年度開講科目）2単位

坂野 雄二

行動療法の最近の動向である「認知的行動療法」の基礎と応用について概説するとともに、症例研究を通して、行動療法における「言語の機能」について論究する。また、行動療法の基礎となる「実験臨床心理学」の方法論について講義を行う。本講の受講者は、「行動療法 I」を受講していることが望ましい。テキストおよび参考書は追って指示する。

心理療法 I 2単位 [後期]

門前 進

心理的な悩みを解決するため、心理療法が現実にも用いられている。しかし、基本は人間理解である。現実にはさまざまな心理療法が行なわれているが、それぞれの心理療法にはそれぞれの人間理解の仕方がある。しかし、かなりの心理療法の人間理解の考え方には、多かれ少なかれ精神分析の考え方が入っている。それ故、精神分析的立場からの人間理解、悩みの理解について、まず話してゆく。

それに続いて、伝統的な精神分析の方法ではなく、精神分析的な立場でのカウンセリングの方法である簡易分析の方法について話していく。

同一授業のなかで、前半は上述したような講義を行ない、後半は実習を行なっていくことにする。実習としては、おもにリラクセーションの方法の体得に重点をおきたい。

心理療法Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位

門 前 進

心理療法Ⅰでは、精神分析的考え方を基礎としたカウンセリング的方法について話す予定であるが、心理療法Ⅱでは、その続きと、さらにイメージ療法、催眠療法などについて話していく予定である。

実習としては、できたら、イメージ体験、暗示行動の体験などを行なっていきたい。

行動医学Ⅰ 2単位 [前期]

黒 田 勲

人間の各種感覚器の特性、知覚情報伝達過程における変容、大脳中枢の局所性、中枢情報処理の諸種モデル、遠心性情報伝達経路と効果器特性、筋骨格系の特性など人間行動の基本原則について定性的および定量的に把握する。

さらに行動の原点となる中枢情報処理モデルがいかなる行動の変容と関連しているかを事例について考察する。本能行動、情緒に基づく行動の特性とその変化、意識、注意、疲労、睡眠等の行動との関連性を医学面に主点を置いて講義する。

行動医学Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位

黒 田 勲

「行動医学Ⅰ」を基礎として、年令変化に伴う生体機能と行動変容、とくに高年令化による精神、心理面と行動面の変化について述べる。

各種ストレスに関連する人体のホメオステシス、ホルモン系の平衡と行動の関連性、教育訓練に関連する情報処理のメカニズム、人間行動におけるミスのメカニズム、各種薬剤、有毒物の行動に及ぼす影響、心身医学および精神医学面から見た行動変容について講義する。

学校カウンセリング 2単位 [前期]

菅 野 純

カウンセリングや精神分析、分析心理学、グループ・ダイナミックスなど、教育の分野とつながりの深い諸理論をふまえて、(1)学業不振、無気力、登校拒否、非行など、子どもの不適応行動への治療・教育の方法、(2)子どもの行動の理解方法、(3)子どもや親との個別的及び集団的カウンセリングの方法、(4)子どもや教師の自己啓発のためのエンカウンター・グループの方法、などを、事例を教材として講義する。

比較文化論 2単位 [前期]

蔵 持 不三也

ひとつの文化的事象には、つねにそれを成立させる技術や知識、伝統、展望、構造といったコンテクストが伴う。こうした事象から構成される“文化”をとらえるのは、したがってかなりの困難がつきまとうものである。本講ではそのため、比較文化論のバイブルとも言うべき E. パンヴェニストの不朽の名著『インド＝ヨーロッパ諸制度語彙集Ⅰ』をテキストとし、これに我が国の事例を加味しながら、贈与、交換、富、親族といった社会

=文化を真に形成するさまざまな要素の変遷や連関系を比較・検討してみたい。なお、講義の性質上、数多くの言語が飛び出すので、外国語アレルギーのない受講生の参加が望まれる。

栄 養 学 II (昭和64年度開講科目) 2 単位

太 田 富貴雄

人間は食物から各種の栄養素を摂り入れ、それを体内で様々に変化させて成長・発育し、また生命維持や活動に必要なエネルギーを獲得している。栄養素の質・量が不均衡な食事を長く摂り続けていると、生体の代謝や生理機能が損われて不健康な状態におちいる。本講義では、摂取した栄養素が消化・吸収を受けて体内で利用・排泄される迄の過程、各種栄養素の生体機能や健康指標におよぼす効果など栄養学の生理学的側面を主体に論じる。

人 間 工 学 II (昭和64年度開講科目) 2 単位

野 呂 影 勇

人間工学を企業や研究所で行っている事例についていくつか紹介する。すなわちオフィスにおける計算機の利用における健康上の諸問題、生産性とハイテクノロジーそして幾つかの工業デザインについてとくにエレクトロニクス環境における人間の特性について述べる。次に会社の活動、特に研究開発、設計、安全衛生での人間工学の実施例と方法について紹介する。病院とくに看護作業の人間工学についてのべる。人間工学の情報学的側面についても述べる。

〔参考書〕：野呂影勇著『職場の人間工学』（中央労働災害防止協会）（1986）

特 論 III (学校カウンセリングの諸問題) (昭和64年度開講科目) 2 単位

小 泉 英 二

学校や専門の相談機関でカウンセリングを実践していく場合、さまざまな疑問や問題に遭遇する。これらを大別すると、I 原理、理論的問題、II 方法、技法上の問題、III 実際的な問題、IV カウンセラーの資質・研修の問題などに別れるが、それぞれの領域で、実践上のレベルの問題から入って、本質的な問題へさかのぼって考究していきたい。

問題意識をもって積極的に考え、討論しようとする心構えのある学生の参加を望む。

特 論 IV (教育工学) (昭和64年度開講科目) 2 単位

野 嶋 栄一郎

教え、学ぶという教育環境に関する研究は、従来ややもすれば理念の提起に終止しがちであったが、最近急速に、現実性、具体性及び多様性を帯び新しい展開を示してきている。ここでは、複雑な様相を呈する現代の教育問題の解決や研究のあり方に、教育工学を中心とする新しい教育研究の波が何をなし得るか論じる。

教科書は別途指定

〔参考書〕：『授業改革事典』（Vol. 1～3）

専 門 教 育 科 目 (スポーツ科学科 必修)

※開講年度の表示のない学科目は、すべて本年度(昭和63年度)開講科目

スポーツ社会学(昭和64年度開講科目) 2単位

宮 内 孝 知

スポーツは現代社会において極めて大きな、かつ、重要な意味を持つ社会現象である。それは一つの文化として大きな勢力を持っているばかりでなく、政治や経済と密接な関係にあり、そこに社会学的理解の必要性和意義がある。本講義では、スポーツの社会的な意味と価値、その機能などについての基礎的理解を得ることをねらいとしている。

〔教科書〕:『スポーツ社会学講義』(大修館より62年度中に出版される予定)

スポーツ情報論 2単位 [後期]

中 条 一 雄

情報化時代の今日、一瞬にして世界を駆けめぐる大量の情報に、スポーツ界も大きな影響を受けている。スポーツに対する選手や大衆の考え方、世間の目も、めまぐるしく変化しつつある。スポーツと情報のかかわり合いを、次のような綱目で追及してゆきたい。

- ① スポーツの発達と情報の大切さ
- ② 真実とは何か。見る目の大切さ
- ③ 情報と商業主義・企業
- ④ 情報とプロ・アマ問題
- ⑤ 情報と政治権力。言論の自由
- ⑥ ニュースと解説・評論
- ⑦ 情報の分析と利用:新聞の読み方
- ⑧ 情報の分析の実例
- ⑨ わかり易い情報とそのまとめ方
- ⑩ 情報としての体育学

スポーツ文化論 2単位 [前期]

寒 川 恒 夫

スポーツを文化の問題として論じるために、以下の諸項目について講義をおこなう。

1. 文化の概念。
2. スポーツの概念。
3. 遊戯、ゲーム、体育、身体文化などスポーツと関連する諸概念とこれら諸概念間の関係。
4. 未開・伝統的社会と現代社会における、全体文化とスポーツ文化要素(あるいはスポーツ文化複合)の関係の諸相。

〔教科書〕：『スポーツ人類学入門』（ブランチャード，チェスカ共著，大修館書店）

スポーツ経営学Ⅰ（昭和64年度開講科目）2単位

梅 澤 宣 雄

スポーツ経営学とは何か。その意義と，理論体系について，組織論，経営過程論，行動科学等に依拠しながら概説する。

社 会 調 査（昭和64年度開講科目）4単位

千 石 保

国・地方公共団体・企業などが，政策を決定するためには，国民や消費者などのニーズを把握する必要がある。

社会調査は，この世論や消費傾向などを探ぐるための手段である。本講座では，調査課題と仮設の設定，統計的調査法，事例的調査法，などの理論を学習するほか，典型的な政治に関する世論調査，商品開発のための，いわゆるマーケット・リサーチなどのケースを取りあげて，実践をも学ぶ。

スポーツ心理学（昭和64年度開講科目）2単位

上 田 雅 夫

スポーツ心理学の学問としての体系づけには，いくつかの立場がある。本講義では，心理学の科学的方法によって体育・スポーツ事象の諸問題がいかにとらえられるかを究明する立場をとっていきたい。主な問題領域としてはつぎのものを予定している。(1)スポーツ行動の本質，(2)運動・競技の適性，(3)トレーニングの諸問題，(4)競技力について，(5)緊張異常とその対策。

バイオメカニクスⅡ（昭和64年度開講科目）2単位

永 田 晟

多くの基本運動とスポーツ活動を解剖学と生理学的な面から分類し，それぞれの運動メカニズムを講義する。運動現象の機構をわかり易く詳講し，演習をして実証してみる。

- (1) 基本運動の分類と人体解剖図
- (2) スポーツ活動時の骨・筋，靱帯，神経，血液の働き
- (3) バイオメカニクスの研究方法
- (4) 運動神経機構と神経支配
- (5) キネテックな解析例
- (6) キネマテックスな解析例
- (7) 動きのエネルギー効率
- (8) バイオ・フィードバックの応用
- (9) パワーの出し方
- (10) 各種運動方程式と生体工学

体力トレーニング理論・実習 2単位

加藤 清 忠

体力とは何かとの基本的な理解の上に、体力養成ムーブメントの歴史的背景や現況に触れるとともに、体力の維持と向上に必要なトレーニングの原則や具体的な方法について解説する。実技演習ではウェイトトレーニングを中心に進めていく。したがって、一般的にバーベルやダンベルを用いたトレーニングを行うが、必要に応じマシンによるトレーニングをも実施したい。

テキスト：『トレーニングマニュアル』（前野書店）

演 習 I（バイオフィードバック法と行動療法）4単位

児 玉 昌 久

生体情報を外部刺激におきかえてフィードバックし、心身を自ずから制御することを目指すバイオフィードバックは、行動理論に基づく方法で行動の改善を試みる行動療法の一つである。行動理論の基礎となる考え方や、バイオフィードバック手法の理論についての文献講読を中心に、基本的な生理指標についてのバイオフィードバックを実際に体験しながら、心身の自己制御の意味や可能性について考えてゆく。

演 習 I（精神生理学・生理心理学の発展）4単位

山 崎・勝 男

精神生理学は人間の精神的な変数を独立変数として操作し、それに対応して生じる生理的な変化を従属変数としてとらえるが、一方生理心理学は生理的な変数を独立変数として操作し、それに対応して生じる行動を、従属変数としてとらえるところに両者の違いがある。いずれも、行動の諸側面を中枢神経系の構造と機能とに対応づけて考察する、心理学と生理学の学際的な立場をとる。当演習ではこの学問領域の初歩的な理解を深めることを目的とし、方法論を含めた基礎的な実験を併用して、生理的な指標の測定法をまずマスターしてもらおう。同時に関連する内外の代表的な論文を輪読し、この学問の位置づけを明確とする。受講者は「精神生理学及び実習」を履修していることが望ましい。取り上げる生理的な指標は、脳波、眼球運動、心拍、呼吸、脈波、皮膚電位活動、筋電図である。

演 習 I（運動と代謝）4単位

村 岡 功

本演習では、運動生理学に関する専門書（英文）を輪読しながら、運動を生理学的に把握するとともに、運動生理学およびスポーツ生理学における基礎的な測定技術を習得する。

演 習 I（スポーツの民族学的考察）4単位

寒 川 恒 夫

スポーツ民族学についての基礎的演習をおこなう。スポーツ民族学は、未開社会と伝統的社会（それに一部は現代社会）のスポーツ（遊戯、ダンス、ゲーム、運動競技などを包括する広義のスポーツ）を民族学（文化人類学）の方法によって研究する分野である。本

演習は第3年次演習のための基礎の性格を有するため、その主要目的は、日本と諸外国のエスニックスポーツとその文化的背景について幅広い知識を得ることに置かれている。この目的を達成するために演習は次の2つの方法によって進められる。1つは内外のスポーツ民族誌資料の講読と映像資料の分析であり、他の一つはフィールドワークの実習である。フィールドワークは特定村落に数日間宿泊して、その地に伝承されるエスニックスポーツの採録に当たるもので、採録は、当該スポーツの当該社会における文化的意味を解説すべく、文字とカメラ・ビデオ等映像機器とによっておこなわれる。

演 習 I (スポーツ社会学演習) 4単位

宮内孝知

スポーツ及び社会科学に関する文献をできるだけ広く講読し、スポーツの社会的理解に必要な基本的態度や知識を高める。いわば、社会とスポーツの関係を様々な角度から検討しながら、「スポーツ社会学とは」という問題に、自分なりの解答を得られるようになることをねらいに演習をすすめることになる。

従って、幾つかのサブグループに分かれての討論・発表なども一つの方法であると考えている。

演 習 I (衛生学演習) 4単位

町田和彦

将来、研究活動、国内・国外の保健活動(行政)および保健・衛生関連企業に進むことを希望する学生が、衛生・公衆衛生学(保健学)のどの分野にも進めるように最低限度の研究および活動の進め方(問題解決能力)と実験的技を身につけられるようなトレーニングをおこなう。

前期は和文論文を中心とした抄読と講義、さらに英文論文の精読をおこなう。後期は実習を主体とする。実習項目として、物理・化学的環境測定、水質検査、微生物学免疫学的検査、臨床生化学検査、元素分析等を予定している。また、いくつかの研究施設の見学もおこなう予定である。

本演習を希望する学生は選択科目の衛生学、公衆衛生学Ⅰ、同Ⅱほか、学科共通選択科目も含め、できるだけ多くの医学関連科目を履修することが望ましい。また、本演習は必ずしも時間通りに終わらないので演習の後の科目や活動をさけることを希望する。

演 習 I (リハビリテーション理論と方法) 4単位

比企静雄

リハビリテーションの対象としては、身体障害から精神障害にわたって、その種類も程度も非常に多様なものがあるが、この演習Ⅰおよび演習Ⅱでは、身体障害のうちで、人間の感覚機能や運動機能に一時的あるいは長期的に起きる障害に注目する。そして、それらの障害を検査して診断する手法や、障害された機能を修復あるいは代行する可能性や、機能を回復するための訓練の効果などについて、医学や工学や教育学などの見地から基礎的

な知識を解説をする。また、障害の検査・診断に使われる機器や、機能の修復・代行のための補装具や、機能回復訓練のシステムなどについても、技術的な進展を紹介する。

演習Ⅰでは、主として感覚機能の障害をとりあげ、そのうちでもとくに、視覚に障害がある場合に文字を読んだり書いたりする機能、あるいは聴覚に障害がある場合に音声を聴いたり話したりする機能について、実習や見学を組合せて講義を進める予定である。

演 習 Ⅰ（地域・職場等におけるスポーツ経営）4単位 梅 澤 宣 雄

スポーツ経営学の基礎理論を理解することが出来るよう、先行論文・資料等に関する文献研究を中心に研究討議を行なう。特に、スポーツ経営学の基礎理論を、学校体育としてのスポーツ経営、地域や職場におけるスポーツ経営、商業スポーツ施設（スイミングクラブ、テニスクール、リゾートスポーツエリア等）の経営、競技スポーツの集団（チーム）の経営等の各領域にどのように活用したらよいか、という視点を常に意識しながら、より正確に、より深く理解できるようにする。また、経営調査（診断・評価）の技術を身につける上で必要な、基礎的準備についてもこの演習のもう一つの柱とする予定である。

なお、テキスト・参考書等については、授業の初めに指示する。

演 習 Ⅰ（スポーツ法学演習）4単位 濱 野 吉 生

この演習は、スポーツ法学の全体を把握するとともに、その研究手法を習得することを目的として進めていく。

したがって、授業の前半は、スポーツ法学そのものの理解に重点を置き、後半は、報告・討議を交えつつ、具体的な事例・判例を取り上げていきたいと考えている。

参考書等については、授業中に指示する。

演 習 Ⅰ（バイオメカニクス）4単位 鈴 木 秀 次

主に陸上競技との関連性に留意しつつ、筋肉の働きを演習によって理解、把握させる。すなわち、筋肉についての基礎的知識を講義し、人体筋肉模型、人工骨模型、脳・脊髄神経系模型等を用い、解剖学での基礎的知識を学習させる。さらに、解剖学的知識を習得したうえで、次に、生理学的手法を用い、走、跳、投運動における基本的動きに関わる各筋肉の機能について演習し、動きにおける各筋肉の構造と機能との相互関係を学習する。

以上、スポーツ方法論・実習（陸上）で実践した実際の身体運動での技術の向上に役立たせる内容、すなわち、機能的解剖学的視点からみたスポーツの運動経過の分析を演習によって理解・把握させる。

演 習 Ⅰ（栄養と健康〈総論〉）4単位 太 田 富貴雄

人間が成長し健康で活動的な生活を送るためには、およそ50種類の栄養素を食物から摂取しなければならない。これらの栄養素は各々特有の機能、すなわち体成分の構成材料や

エネルギー源、あるいは生理機能の調整などを行っており、栄養摂取の過不足や不均衡は体力、運動能力更には健康水準の低下をもたらす。本演習は、栄養に関する基礎から応用に至る幅広い知識を、スポーツ活動や健康管理などに実際に活用できるように身につけ、更に栄養・食生活とスポーツ・健康などに係る卒論を作成する際に必要な技術・方法等を習得することを目的にしている。演習の内容は、〔Ⅰ〕で食物と栄養に関する基本的事項、〔Ⅱ〕で食生活と体力・健康・寿命との関連について取り扱い、スライド・ビデオ資料を用いての解説と関連文献の輪読、討論および食に関する実態調査などを行う。

演 習 Ⅰ（運動学演習）4単位

塚 脇 伸 作

運動学（運動形態学）は、各種スポーツの運動形態（運動フォーム）の成立と変化に関して研究する学問である。各種スポーツ運動の習得・習熟、即ち荒削りのフォームから技術的に洗練されていく発展を通じて、その運動の特性を明確にしようとするものである。

このような運動学の立場から各種スポーツにおける運動特性、運動発達、運動類系、運動方法について理解することにはじまり、次のような順序で演習を行う。

1. 運動学に関する問題意識喚起のための話題提供とその討議を行う。
2. 国内外の文献収集とその講読を通じて現状を把握し、運動学的考察を行う。
3. 運動学的研究法の手順とその実践を行う。
4. 各自の運動学的研究課題設定への準備を行う。

演 習 Ⅱ（バイオフィードバック法と行動療法）（昭和64年度開講科目）

4単位 児 玉 昌 久

「演習Ⅰ」に引きつづき、心身のセルフコントロールを扱うが、単に障害や行動異常の治療法としてではなく、リラクセーションによるストレスへの対応や、身体運動の技術習得法としてのバイオフィードバック法の理解を、各種生理指標に関する諸研究の講読と併せて深めてゆく。また、生理指標以外の行動的指標などを用いてのバイオフィードバック訓練の可能性についても、実験などの体験を通して検討してゆく予定である。

演 習 Ⅱ（精神生理学・生理心理学の発展）（昭和64年度開講科目）4単位

山 崎 勝 男

「演習Ⅰ」で学習した基本的事項をさらに深く追求し、この研究領域の主要なテーマである生体のリズム、夜間睡眠の諸相、睡眠ポリグラフィ、注意、定位反射と慣れ、注意と事象関連電位、脳機能の左右差について広範な文献研究を行って、現在の国際的な研究動向を探ることを演習の目的としたい。受講者は文献研究に参加して、各自の興味にもとづいた文献紹介及び報告の役目を随時担う。

演 習 II (運動と代謝) (昭和64年度開講科目) 4 単位 村 岡 功

「演習Ⅰ」の活動を基礎として、ここでは特にエネルギー出力に焦点を合わせ、その実験技術を演習する。また、継続して英文の輪読を行うが、「演習Ⅱ」では各自の卒論の研究テーマと関連の深い内外の論文を渉猟し、その内容を発表する。

演 習 II (スポーツの民族学的考察) (昭和64年度開講科目) 4 単位

寒 川 恒 夫

スポーツ民族学の理論についての演習をおこなう。一世紀の研究史をもつスポーツ民族学は、これまでに、進化論、伝播論、機能論、構造一機能論、解釈論、象徴論などさまざまな理論から接近されたすぐれた数多くの論文・著書を有している。本演習では、こうした論文・著書の講読を通して、スポーツ民族学の主要な諸理論について理解する。あわせて、卒業論文の作成に必要な研究方法についても学ぶ。フィールドワーク実習は第二年次に引き続きおこなわれる。

演 習 II (スポーツ社会学演習) (昭和64年度開講科目) 4 単位

宮 内 孝 知

内外のスポーツ社会学の論文を広く読みながら、スポーツの社会学的理解を深めるとともに、基本的な研究方法の演習をする。また、この「演習Ⅱ」を通じて、多岐にわたるスポーツ社会学の研究領域から、自分の研究テーマを具体化していくことも必要であろう。

〔参考書〕：『体育・スポーツ社会学研究』（道と書院）、『Sport and Social Theory』（HUMAN KINETICS）、SSJ、IRSS 所収の論文等

演 習 II (衛生学演習) (昭和64年度開講科目) 4 単位 町 田 和 彦

演習Ⅰで身につけた基礎的知識と実験手技をさらに充実させるとともに、研究能力の育成に重点をおく。

前期は欧文論文を中心とした抄講と講義、さらに、演習Ⅰの実習でできなかった実習項目についておこなう。

後期は各学生の将来の希望にそった方針で、与えられたいくつかの研究テーマ（あるいは各人の考えた研究テーマ）を選び演習を進め、さらに、卒論につなげていくことが望ましい。

演 習 II (リハビリテーション理論と方法) (昭和64年度開講科目) 4 単位

比 企 静 雄

演習Ⅰで感覚機能の障害をとりあげたのに対して、演習Ⅱでは主として運動機能の障害をとりあげ、とくに、下肢の障害に対する歩行機能、あるいは上肢の障害に対する器具の

操作機能を中心にして、障害の検査・診断の手法や、機能の修復・代行の可能性や、機能回復訓練の効果についての理論的な考察と、障害の検査・診断に使われる機器や、機能の修復・代行のための補装具や、機能回復訓練のシステムについての実験的な検討をする。

演 習 II (地域・職場等におけるスポーツ経営) (昭和64年度開講科目)

4単位 梅 澤 宣 雄

スポーツ経営の実践領域である、学校、地域、職場、スポーツ施設等に関する経営学的研究に資料を求めながら、スポーツ経営の理論体系について学習することを基本的なねらいとする。同時に、演習Iにおける学習をもふまえて、ここでは経営調査グループを組織して実際に調査を行う予定である。すなわち、目標の設定、調査計画の立案から、調査表の作成、調査の実施、結果の処理、まとめといった一連の具体的な作業が予定されている。さらに、このような経営調査(実態調査)と、スポーツ経営学の理論を高めたり、確かめたりするための研究との違いや、その関係についても十分な理解が得られるよう配慮する。そのことが、次年度の卒業論文への取り組みにとってたいへん重要であると考えからである。

演 習 II (スポーツ法学演習) (昭和64年度開講科目) 4単位 濱 野 吉 生

この演習は、「演習I」(スポーツ法学演習)を踏まえ、報告・討議を交えながら、スポーツ法学のより高度な理解と研究手法の習得を目的として進めていく。

参考書等について、授業中に指示する。

演 習 II (バイオメカニックス) (昭和64年度開講科目) 4単位

鈴 木 秀 次

演習Iによる筋肉の働きを一通り理解把握した上で、ここでは年間を通し、与えられた課題に対し数人で班をつくり、スポーツの運動経過を分析する。さらに関連する論文、参考書を読ませ、課題に対する文章作成方法の涵養に務める。

演 習 II (栄養と健康〈各論〉) (昭和64年度開講科目) 4単位 太 田 富貴雄

成長期のタンパク質やカルシウム・ビタミンAに富む食事は骨格・身長を発達を促がし、中高年期の多価不飽和脂肪酸や植物タンパク質・食物繊維が多い低食塩食は、動脈硬化や高血圧の進行を抑えて成人病を予防する。この様に一生の時期により栄養摂取の至適パターンは変化し、また各種疾患の予防や治療に有効な食事構成も異なる。本演習では、成長・発達や体力・寿命など各種健康要素と疾病の予防・発生におよぼす食生活の影響について、文献による調査・検討並びに討論を行う。

演 習 II (運動学演習) (昭和64年度開講科目) 4単位

塚 脇 伸 作

「演習 I」(運動学演習)に引き続いて、一層の充実を図るために次のような演習を行う。

1. 各自の研究課題を設定し、そのための文献収集とその考察
2. 各自の研究課題に応じた研究法の実際による記述資料作成とその考察
3. 各自の研究課題の研究報告とその討議
4. 反省と卒業論文作成のための準備

専 門 教 育 科 目 (スポーツ科学科 選択)

※開講年度の表示のない学科目は、すべて本年度(昭和63年度)開講科目

社会構造論(昭和64年度開講科目) 2単位

濱 口 晴 彦

社会構造の概念は、人間の社会的存在を理解する前提の一つである。このことについて、日本の新中間層の形成、発展、そして現在の諸相を、演習形式を取り入れ、理解を深めていくよう試みたい。

スポーツ経営学Ⅱ(昭和64年度開講科目) 2単位

梅 澤 宣 雄

「スポーツ経営学Ⅰ」が、経営理論全般に亘る概論であるのに対し、この科目は、専ら学校におけるスポーツ経営(体育経営・管理)の問題に限定するものであり、いわば各論(領域論)の一つであるといえよう。従って、この科目を選択履習する者は、あらかじめ、「スポーツ経営学Ⅰ」を修了していることが望ましい。

特に、教員免許を取得しようとする者にとっては、必須の科目であることに、注意されたい。

社会調査・実習(昭和64年度開講科目) 2単位

千 石 保

社会調査は、研究課題の設置、調査仮設の設定、調査票の作成、フィールドワーク、統計的处理、データ分析の手順で進められる。

本講では、これらの手続きを、学校内におけるさまざまな病的問題、教育制度や社会構造、青年の労働観、政治意識、家庭における親子関係や人間関係、商品開発などのマーケットリサーチなど、具体的問題について実践する。

コミュニティ論 2単位〔前期〕

岡 野 静 二

まずコミュニティとは何かを、基本的に理解する。そして日本にふさわしいコミュニティの概念を把握する。その概念にてらして、日本の過去の地域社会に存在していたが現在失っているもの、現在の地域社会で始めて得たものなどを考える。そしてコミュニティ形成に必要な条件とは何かを知る。行政の役割、住民運動、ボランティア活動などについて、現情を把握し、それらの意義と役割について明らかにする。

スポーツ法学(昭和64年度開講科目) 2単位

濱 野 吉 生

ここではまず、スポーツ法学の基礎理論と構造について説明し、次に、スポーツ法学が直面している具体的な問題を適宜取り上げていきたいと考えている。

参考書等については、授業のはじめに指示する。

スポーツ行政論 2単位 [前期]

深川 長郎

1. スポーツ行政の意味と内容。2. 日本のスポーツ行政の現実とそのあり方。〈国のスポーツ行政から、都道府県等自治体のスポーツ行政から論議を進める。〉3. 世界のスポーツ界の組織と行政的かわりについて。4. スポーツ関連の諸法律、条令、政令、省令等と行政との関連について。5. オリンピック憲章、アジアオリンピック評議会憲章、国際大学スポーツ連盟憲章等とこれに対するある意味での行政的関連について。6. ユネスコ等国際的諸機関とスポーツ行政のすすめ方。7. 将来のスポーツ界の行政的とり組みについての展望。

以上を現実をふまえて考察を進める講義内容とする。

公衆衛生学Ⅰ 2単位 [後期]

町田 和彦

衛生学の講義要項でのべたごとく、衛生学と公衆衛生学の区別は難しい。そこで公衆衛生学Ⅰは衛生学で一応基礎的な衛生・公衆衛生学的な知識を身につけた学生が、実際に地域住民の中に入って保健指導をおこなううえでの重要な知識や方法論を身につけられるような講義内容をもつ。その意味では、公衆衛生学Ⅰだけの選択はさけ、衛生学を必ず選択してほしい。

内容は、公害、母子保健、成人保健、産業衛生、地域保健、人口問題、衛生統計、衛生行政、衛生法規等を予定している。

教科書は衛生学と同様、『簡明衛生公衆衛生』（南山堂・菊池正一他）を使用する。

公衆衛生学Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位

町田 和彦

衛生学、公衆衛生学Ⅰで学んだ基礎的事項の応用編として、各時間一テーマごとの特論形式で近年問題となっている衛生公衆衛生学上のトピックスをまじえ、スライドを中心とした授業をおこなう。従って本講義の受講者は公衆衛生学Ⅰを授講していることが望ましい。

内容は、微量元素の生体内相互作用、カドミウムの健康障害、葉害、食品添加物、日内リズム、季節と健康、最近の感染症、肝炎の疫学、AIDSとATL、国民衛生の動向等を予定している。

生 理 学 2単位 [前期]

吉岡 亨

運動の生理学全般について講義する。内容は興奮、収縮、疲労、自律神経系、小脳、運動と緊張、呼吸、心臓、体温、性徴などに分かれている。ヒトは何のために運動するのか？ 運動することによりヒトの体内では何が起るのか？ といった基本的な問に答えると共に、(1)男女では運動機能に差がある理由 (2)“あがる”という現象 (3)運動機能はど

ここまで上昇可能か? といったような疑問を解決するには、何が分らなければいけないかを平易に解説する。

衛生学 2単位 [前期]

町田和彦

病気を治療する臨床医学に対し、病気を予防し、健康の維持増進をはかる学問として、衛生学、公衆衛生学がある。今日、この二つの学問は明確に区別できないが、歴史的過程からいって、日本では、衛生学は環境衛生、感染症、栄養・体力医学等実験室内でおこなう研究が多いのに対し、公衆衛生学は地域医療の諸問題（母子保健、学校保健、成人保健、精神衛生、産業衛生等）や人口問題、衛生行政等、直接地域住民の中に入り、健康問題の改良にとりくむ研究が多い。しかし内容的にみてその両者を分けることは難しいため、本学の衛生学では、なるべく多くの衛生、公衆衛生学上の考え方や知識を身につけるため、衛生・公衆衛生の歴史、衛生・公衆衛生学（保健学）の医学の中に占める位置と重要性、環境衛生、感染症、疫学、栄養等を中心に講義を進めていく。

教科書は当分の間、『簡明衛生公衆衛生』（南山堂・菊池正一他）を使用する。

運動生理学 2単位 [後期]

村岡功

運動と関連深い生理的機能は、主に運動を支配する神経系および内分泌系、運動を発現する骨格筋系、ならびに運動を持続する呼吸循環系である。

ここでは、これら生理的諸機能に焦点を合わせ、一過性の運動およびトレーニングによる影響について言及する。

なお、この科目を履習するにあたっては、前期に「生理学」を履習しておくこと。

バイオメカニクスⅠ 2単位 [前期]

鈴木秀次

人間の神経筋系は素早い関節の動きとか、自分の体重を超えるような重いものを持ち上げるとか、あるいはピアノをひいたり絵を描いたりする極めて繊細な動きにもよく適応する。ここではこのような幅広い運動に関わる脊髄レベルでの神経筋制御の基礎的メカニズムを解説する。

身体形態学（解剖学を含む）2単位 [後期]

加藤清忠

本講座はヒトの身体の形態に関する理解を深めようとするものであるが、内と外との両側面から概説する。内からとは解剖学的立場であり、身体の基本構造から骨や筋を中心とした運動器官系まで言及する。外からとは体育学的・人類学的立場であり、発育段階に応じて身体比例や体格・体型に関して述べる。

リハビリテーション（昭和64年度開講科目）2単位

比企静雄

人間の感覚機能や運動機能に一時的あるいは長期的に起きる障害に注目して、障害の検

査・診断の手法や、機能の修復・代行の可能性や、機能回復訓練の効果について、基礎的な知識を解説し、障害の検査・診断に使われる機器や、機能の修復・代行のための補装具や、機能回復訓練のシステムなどについても、技術的な進展を紹介する。〔演習Ⅰおよび演習Ⅱ（リハビリテーション理論と方法）を履修しなかった学生だけを対象とする。〕

精神生理学及び実習 3単位 〔前期〕

山崎 勝男

精神現象の生理学を実験実習を通して学習する。精神生理学で多用されている脳波、眼球運動、心拍、呼吸、脈波、皮膚電位活動、筋電図などのそれぞれの指標を、実習を通して解説しながら、まずはじめにこれらの生理的な指標の基本的測定法を完全に習得してもらう。次に当方で準備した実験手続書に従って実験実習を各自にしてもらう。半期集中型の授業なので、解説——実験実習——レポート提出のサイクルを数回くりかえすことになる。レポート提出毎に個人別講評を行う。実験実習が授業の中心をなすので、受講者には積極的な受講態度が要求されよう。実習のメインテーマは、生体リズムの観察、注意、定位反応と慣れの理解を考えている。スポーツ行動の背景をなす「心」と「身体」の接点に興味を持つ受講者を歓迎したい。

音楽理論・実習（昭和64年度開講科目）2単位

大池 美智子

講義では、さまざまなジャンルの音楽に目を向け、広い視野からとらえた音楽と、スポーツやダンスとの関係について概説する。

実習では、次のような内容を予定している。

1. リズム・トレーニング
2. 鑑賞によるイメージ・トレーニング
3. レクリエーションのための合唱と合奏
4. やさしい打楽器の奏法と応用法
5. 動きのための「音」えらびと「音」づくり

学校保健Ⅰ 2単位 〔前期〕

坂口 早苗

学校保健は、保健管理と保健教育に大別される。保健管理は、主に学校保健法にもとづいて行われる管理活動であり、保健教育は主として学校教育法にもとづく教育活動である。

学校保健法と保健教育の概要について講義をしていきたいと思う。

学校保健Ⅱ 2単位 〔後期〕

坂口 早苗

児童・生徒・学生および幼児に多くみられる疾病異常の各論にふれ、また健康に学校生活を送るための学校環境衛生について講義をしていきたいと思う。

スポーツ工学Ⅰ（昭和64年度開講科目）2単位

池 原 義 郎

スポーツ工学Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位

比 企 静 雄

人間の運動機能に関与する体格・体力や動作の特性を記録して分類・評価するための、力学的、生理学的、あるいは心理学的な多面的な測定について、測定に使われる器具・機器・システムの動作原理と操作方法、および、電子計算機の利用による、測定データの統計的な処理の手法や、画像解析や運動のシミュレーションのためのモデル化の手法などについて解説する。〔専門教育科目の「スポーツ工学Ⅰ」の内容と相補うものである。〕

スポーツ方法論・実習（体操）2単位

〈体操Ⅰ〉 中 村 茂

体操は身体のいろいろな要素や作用をよりよくするための身体運動、という原理的な意味を含めた目的規定の見地に築かれた身体運動との見解と、同時に他のスポーツや体育運動の基本原理的な身体運動としてとらえ、「スポーツ方法論—体操—」の予習内容を設定してみた。

主として徒手体操を中心とし、その構成や個々の動作を始め、秩序運動、組み体操、集団体操、手具、機器器材を使用した運動などを実習教材として、効率的な動きづくり、身体づくりの予習としたい。

〈体操Ⅱ〉 船 戸 徳 郎

体操Ⅱは、体操Ⅰとの関連の中で、学校体育において必修であり、個人的スポーツの一つである「器械運動」領域を扱う。この領域のねらいは、克服的スポーツと正しい姿勢の達成を目的としたスポーツの特性を生かして、個人の能力に応じた課題を解決することであり、その体験学習過程でスポーツの喜びや楽しさを経験させる。

具体的な器械種目としては、

1. マット運動
2. とび箱運動
3. 鉄棒運動
4. 平均台運動（主として女子）
5. その他なわとび等手具を使用した運動を扱い、その理論と実習を行う。

なお、これらの基本技の習得、習熟とともに学習者側の立場のみでなく、指導者側の立場での指導法の指導と経験をさせる。

スポーツ方法論・実習（陸上）2単位

〈陸上Ⅰ〉 鈴 木 秀 次

トラック種目のうち主に短距離、ハードル種目での技術面を中心に、特にスピードを増大させるための合理的な身体の動きについて、その科学的根拠がどこにあるかを、主に運動制御とバイオメカニックスの知識を用いてやさしく解説し、さらに、実習では理解した

科学的知識を実際に応用し、技術的側面でのすみやかな向上がみられることを体験させ、短距離の練習においてはトレーニング面ばかりでなく身体運動の機能的側面を考慮した反復練習が特に大切であることを力説する。

使用教科書、参考書等については、最初の授業で案内する。

〈陸上Ⅱ〉 鈴木 秀 次

フィールド種目のうち主に走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げについて、ここでも特に技術面を中心に、より遠くへ跳んだり、投げたり、またはより高く跳ぶための身体動作がどのような科学的根拠に基づいてなされているのかをやさしく解説し、さらに、実習では、理解した科学的知識を応用し、実際に反復練習によって技術の向上がみられることを体験させ、科学的知識の陸上競技への導入が如何に大切であることを力説する。

使用教科書、参考書等については、最初の授業で案内する。

スポーツ方法論・実習（球技Ⅰ）2単位

〈バレーボール〉 矢 島 忠 明

バレーボールは、学校体育の教材ならびに部活の一つとして重要な役割を果たしている。と同時に社会スポーツ、職場スポーツとしても広く愛好されている。さらにまた、国内・外ともに、ポピュラーな競技スポーツとしても目ざましい進展を遂げている。このようにバレーボールが幅広く活用されてきているのは、総合的な体力を高めながら、ボールコントロール、ボディコントロールなどの能力を高めて、チームプレーに還元するコミュニケーションスポーツの役割をも果たしているからである。

本授業では、理論的な裏づけを基に、基本動作及び技術を確実に身につけると同時に、バレーボールの効果的な指導の手順、方法を修得し、加えてルール、審判をはじめとして試合の運営等について学習する。

〔テキスト〕：大泉書店発行の『バレーボール』を使用する。

〈バスケットボール〉 五 三 健

バスケットボールの技術構造を理解しながら、ゲームに必要な基本動作および技術、応用技術を確実に修得することを目指す。

この講座では、集団的技能を中心に展開し、その様相から課題を見付け出すことにより個人的技能の向上を計り、ゲームに連結させて行く。同時に、理論的な裏づけを基に、将来役立つバスケットボールの効果的な指導法をも身につけるようにする。

理論の実践を中心に実技指導を行うが、学校体育の教材やクラブ活動の一つとして、重要な役割を果たしているバスケットボールの教育的価値、歴史やルール、ゲームの進め方などについても、ビデオを併用して講義をする。

スポーツ方法論・実習（球技Ⅱ）2単位

〈ラグビー〉 日比野 弘

ラグビーはチームスポーツである。15人のメンバー全員が、ルールと攻防理論を熟知し、自らの役割をまっとうしたときに、勝利の喜びを味わうことができる。

この講座では、ラグビーの専門的知識と、個人の技術水準を高め、あわせて将来役立つ指導法を身につけることを目的とする。

技術の上手、下手にかかわらず、スキルの向上を目指すもの、レフリー、コーチを志望するもの、教員としてラグビー経験をとり入れようとするものなど、ラグビーに関わりを持つ、幅広い層に受講してほしい。

理論の実践を中心に実技指導を行うが、雨天の際には、ラグビーの歴史、戦術論、ルール解説、ゲーム分析など、ビデオを併用して講義する。

（初回はオリエンテーション。筆記用具持参）

〈サッカー〉 加 藤 久

本授業においては、サッカーを行う上で不可欠な技術、戦術、体力の三つの要素を個々に分析し、その内容、能力の高め方、相互の関連性についての理解を深める。また、それをプレーとして表現できるように実技を行っていく。

さらに、サッカーのルールや試合の進め方、歴史と現状、スポーツの中でのサッカーの位置づけ、サッカーの教育的価値などについての講義も合わせて行う。

スポーツ方法論・実習（格技）（昭和64年度開講科目）2単位

〈柔 道〉 小野沢 弘 史

柔術から発展した柔道は、日本民族の生んだ世界に誇るべきスポーツ文化の代表である。

現代スポーツとしての柔道の理論ならび実技を学びながら、柔道の根源を追求してその背景を求め、スポーツとしての意義を考究する。

〈剣 道〉 安 藤 宏 三

竹刀を媒体とした打つ、突く、捌く等の対人攻防技能の習得を通して剣道の理解を深める。

男女共に初心者では基礎から導入し、簡易な試合や審判ができるよう指導する。

準備するもの

- 服装 剣道着、袴（長袖シャツ、長ズボンまたはトレーニング・ウェア上下でも可）
- テキスト：安藤宏三著『目で見える剣道上達法』（成美堂出版）
- その他 手拭、ゼッケン

スポーツ方法論・実習（ダンス）2単位

山本 数子

基礎的な身体の動きからダンスに必要な表現法を体得し、リズム感を養い思想感情を自由に表現出来る身体づくりをし、更に動きと音との関係・構成等を学びながら、ダンス創作法及び各種ダンスを踊ることによって、それぞれのダンスの特性を知り、ダンスに対する視野を広め知識を深める。

○ 服装 レオタード、ダンスシューズ

スポーツ方法論・実習（レクリエーション）（昭和64年度開講科目）2単位

〈レクリエーションⅠ〉 角田 真一郎

多様化する生活、余暇時間の増大、高令化社会へと進む21世紀を見つめ、学校・社会・地域・職域で余暇活動の善用が益々要求されている。

従って本来のレクリエーションの意義を生かす為に、主としてスポーツ教材を取り上げ、いかに効果的に領域や各層が、それぞれにおける活動の中で喜びや、楽しみを得られるかについて追求したい。

〈レクリエーションⅡ〉 角田 真一郎

「レクリエーションⅠ」の学習を基盤として、科学的な学研により、より習熟、充実に計り、グループによって軽スポーツを研究し、指導者としての資質を養う。

必要に応じて、アウト・ドアー・スポーツとしての野外活動も取り上げたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（水泳）（昭和64年度開講科目）2単位

矢野 正次

体育・スポーツの指導者として、水中運動の一つである水泳は、欠くことのできない必須の条件と考える。単に泳げることばかりでなく各種泳法にも優れた技能と知識を持たなければならない。

当科目では、水上安全をふまえて水泳を総合的に研究、実習する。将来、学校体育・社会、職場体育の場合は勿論その他の分野での実践を期している。

スポーツ特論・実習Ⅱ（水泳）（昭和65年度開講科目）2単位

矢野 正次

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（水泳）の修得者が対象であって、水上安全を中心に発展させていく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ウェイトトレーニング）（昭和64年度開講科目）2単位

窪田 登

ウェイト・トレーニングは、筋力やパワーを強化し、筋を肥大させるトレーニングである。すぐれた筋力やパワーが必要なスポーツ選手にとって、このトレーニングは必須であ

る。

だが、健康志向が高まった今日では、このトレーニングが一般市民の間でも広くとり上げられるようになった。本科目では、ウエイト・トレーニングの基礎的な理論と主としてフリー・ウエイト中心の実技を勉強していきたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ウエイトトレーニング）（昭和65年度開講科目）2単位

窪 田 登

本科目では、すでに「スポーツ特論・実習Ⅰ」で基礎的なウエイト・トレーニングの理論と実技を身につけているが、さらにこれに専門的なアプローチを試みる。

理論面では、ウエイトリフティング、パワーリフティング、ボディビルディング、スポーツ選手の補強トレーニングについて、より深い研究を進めていく。また、実技面では、フリー・ウエイトの他にマシンによるトレーニングの実践も深めていきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（体操競技）（昭和64年度開講科目）2単位 塚 脇 伸 作

学校体育における器械運動の発展である体操競技について次のような内容の理論と実習を行う。

1. 次の各器械種目に関する個人技能の確認
 - (1) 男子…床、鞍馬、吊輪、跳馬、平行棒、鉄棒
 - (2) 女子…跳馬、段違い平行棒、平均台、床
2. 個人技能に応じた技の習得と習熟
3. 演技の発表とその採点

スポーツ特論・実習Ⅱ（体操競技）（昭和65年度開講科目）2単位 塚 脇 伸 作

「スポーツ特論・実習Ⅰ」に引き続いて、一層の充実をねらい、次のような理論と実習を行う。

1. より発展した技の習得と習熟
2. 指導法の問題点とその対策
3. 器械・器具の問題点とその対策
4. 審判法の問題点とその対策
5. 競技運営の問題点とその対策
6. その他、競技力向上に関する諸問題とその対策

スポーツ特論・実習Ⅰ（陸上競技）（昭和64年度開講科目）2単位

陸上競技の基礎技術をより高めると共に、指導法を深めるため、次のように実習する。

（教育実習及び公立学校教員採用試験に役立つ技術を中心とする）

1. トラック種目

2. フィールド種目
3. 陸上競技のトレーニング法
4. 児童、生徒の体力づくり

スポーツ特論・実習Ⅱ（陸上競技）（昭和65年度開講科目）2単位

将来、中学校、高等学校の教員を志望する者、及びクラブ活動の指導者を志望する者のために、種々の機器を利用し、陸上競技の高度の専門技術を実習する。

1. トラック種目
2. フィールド種目
3. 指導法
4. 審判法

スポーツ特論・実習Ⅰ（ダンス）（昭和64年度開講科目）2単位

山本 数子

身体運動における表現の多様性と、リズム・音楽などを総合して創作へと発展させる。
服装 レオタード、ダンスシューズ

スポーツ特論・実習Ⅱ（ダンス）（昭和65年度開講科目）2単位

山本 数子

「スポーツ特論・実習Ⅰ」を基として更に高度な技術を体得し、創作活動を主としながら、マスゲーム・フォークダンス等にも触れ広くダンスについての技術と知識を深める。

スポーツ特論・実習Ⅰ（柔道）（昭和64年度開講科目）2単位

大沢 慶己

柔道の技能を高めるとともに、トレーニング法、コンディショニングなどの理論も併せて学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅱ（柔道）（昭和65年度開講科目）2単位

大沢 慶己

柔道の技能をより高めるとともに、指導法、審判法などの理論も併せて学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅰ（剣道）（昭和64年度開講科目）2単位

安藤 宏三

本講座では、将来、学校、地域及び各種の団体における剣道の指導者となることを目指す諸君を対象とする。正しい剣道技能の習得と試合・審判規則に関し理解を深めることをねらいとする。

準備するもの

- ・剣道用具一式（剣道具、竹刀、剣道着、袴、手拭、ゼッケン）
- ・テキスト：安藤宏三著『目で見える剣道上達法』（成美堂出版）

スポーツ特論・実習Ⅱ（剣道）（昭和65年度開講科目）2単位

安 藤 宏 三

本講座は、「スポーツ特論・実習Ⅰ」（剣道）を履習した者を対象とし、更に高度な技能習得と合わせて、日本剣道形、指導法、審判法、大会の企画や運営の方法等についても学ぶことをねらいとする。

準備するもの

- 剣道用具一式（剣道具、竹刀、剣道着、袴、手拭、ゼッケン）
- テキスト：『学校剣道指導の手引き』（文部省）

スポーツ特論・実習Ⅰ（レスリング）（昭和64年度開講科目）2単位 太 田 章

本授業は、アマチュアレスリング競技について、FILA（国際アマチュアレスリング連盟）のルールに基づく、フリースタイルと、グレコローマンスタイルの理論及び実技を行う。

スポーツ特論・実習Ⅱ（レスリング）（昭和65年度開講科目）2単位 太 田 章

本授業は、レスリング競技を、その技術論及びその体力論などに細分化し、また減量などによる調整をも含めて、応用としての理論及び実技を行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ボクシング）（昭和64年度開講科目）2単位 白 鳥 金 丸

ボクシング本来の有り方を理論と実践で行う。その内訳は、

1. ボクシング概念
2. ボクシング教授法の手順
3. ボクシングの基本動作
4. ボクシング施設、装具、器具の取扱いと安全性について

などである。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ボクシング）（昭和65年度開講科目）2単位 白 鳥 金 丸

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（ボクシング）を基本に競技ルールの分析、コンディショニング、ボクシング技術、戦術等を含めた、年間プログラムの作成等を目的とする。

また、ボクシング競技の科学性を考え、体力測定、評価、実験等も併せて行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（野球）（昭和64年度開講科目）2単位

西大立目 永

野球競技の基礎知識と基本技術の徹底した習得を目指して、それらの理解と技術習得の手法を実習する。

特に、「ルールあつてのスポーツ」という厳然たるスポーツ成立の基本条件を踏まえて、野球規則書中の「プレイのルール」の学習にも重点を置き、その上で技術の習得の実習を

行い、規則と技術の接点を探求することにも主眼を置きたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（野球）（昭和65年度開講科目）2単位

西大立目 永

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（野球）で学んだ基礎知識と基本技術を基に、それらを総合的な競技力として、どのように発展させていくのかという学習を行う。

特に、野球はチームスポーツであるという通常の観念を打破し、個人技という観点にも立って、個性尊重の総合競技力を身につける手法を探究しながら実習を重ねてみたい。

さらに、アメリカをはじめとする世界野球界の動向と思想をも論じながら、それらを実習に役立てる方法を模索してみたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ソフトボール）（昭和64年度開講科目）2単位

吉 村 正

ソフトボールは、レクリエーション的に楽しむ方法と競技的に行う方法があることを、プレーしながら理解させる。

またこれに加えて、全受講生に対して、ファーストピッチ特有の専門的技術であるウィンドミル投法と左打者の反対打ちを習得させる。

ただし、雨天の場合は、ソフトボールの本質や歴史、あるいは審判法や記録のとり方等を講義する。

〔テキスト〕：吉村正著「ソフトボール教室」（大修館書店）

〔参考書〕：吉村正著「現代スポーツコーチ実践講座15、ソフトボール」（ぎょうせい）

スポーツ特論・実習Ⅱ（ソフトボール）（昭和65年度開講科目）2単位

吉 村 正

原則として、全国大会あるいは全国大会に準ずる大会で活躍できる選手を育成する。ただし、選手を志さない学生に対しては、それらの大会で審判員とか記録員といった分野で貢献できる人材を育成する。

合わせて、大衆スポーツの王者であるソフトボールの本質を、スローピッチやミディアムピッチの規則に則ってプレーしながら体得させる。

〔テキスト〕：吉村正著「実戦ソフトボール」（大修館書店）

〔参考書〕：吉村正著「現代スポーツコーチ実践講座15、ソフトボール」（ぎょうせい）

スポーツ特論・実習Ⅰ（テニス）（昭和64年度開講科目）2単位

宮 城 淳

近年、社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わずしかも国際性豊かな競技でありこれらの要請に応えるスポーツとして最適であり、この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては基礎的な実技のレベ

ルアップ、マナー、ルール、審判法の修得を目標とする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（テニス）（昭和65年度開講科目）2単位 宮 城 淳

近年、社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わずしかも国際性豊かな競技でありこれらの要請に応えるスポーツとして最適であり、この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては高度な実技の修得と、初心者から中級者までの指導法の修得を目標とする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（軟式テニス）（昭和64年度開講科目）2単位 林 敏 弘

軽いゴムボールを使用し、ダブルスで試合を行うという軟式テニスの特性を理解し、基本技術であるグランドストローク、サービス、ボレー、スマッシュ及びその応用技術、さらには試合における戦法等について、実技と理論の両面にわたって学習をする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（軟式テニス）（昭和65年度開講科目）2単位 林 敏 弘

軽いゴムボールを使用し、ダブルスで試合を行うという軟式テニスの特性を理解し、基本技術であるグランドストローク、サービス、ボレー、スマッシュ及びその応用技術、さらには試合における戦法等について、実技と理論の両面にわたって学習をする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（卓球）（昭和64年度開講科目）2単位 森 武

まず、理論的にも技術的にもできるだけ高度の次元に到達できることを目標としたい。もちろん、目的やレベルによって多角的な指導法をとっていく。たとえば、レクリエーション的な地域での指導法、学校体育の授業やコーチ・顧問としての指導法、さらには日本代表チームの指導者となる場合なども含めて考えている。その他、ルールと審判法、また大会運営法（公認資格取得を目的としたもの）など現実に役立つものもとあげたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（卓球）（昭和65年度開講科目）2単位 森 武

まず、理論的にも技術的にもできるだけ高度の次元に到達できることを目標としたい。もちろん、目的やレベルによって多角的な指導法をとっていく。たとえば、レクリエーション的な地域での指導法、学校体育の授業やコーチ・顧問としての指導法、さらには日本代表チームの指導者となる場合なども含めて考えている。その他、ルールと審判法、また大会運営法（公認資格取得を目的としたもの）など現実に役立つものもとあげたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バドミントン）（昭和64年度開講科目）2単位

関 一 誠

学校体育・社会体育の場で、初心者を対象とした指導法（導入・展開・応用）を講じ、バドミントン遊びからバドミントン競技まで各段階による実習を行う。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バドミントン）（昭和65年度開講科目）2単位

関 一 誠

「特論・実習Ⅰ」を踏まえて、競技バドミントン技能の向上、策戦・戦法のたて方等、競技の特性を生かした方法論・実習を行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バレーボール）（昭和64年度開講科目）2単位

古 市 英

競技スポーツとしてのバレーボールと、レクリエーションスポーツとしてのバレーボールの違いを基調として、個人技能、及び集団技能を習得することを目標とする。

コ・エド (co-ed) スポーツとしての位置づけについても考えていきたい。

実技だけでなく、文献学習や視聴覚教材の利点を生かした授業をもくろんでいる。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バレーボール）（昭和65年度開講科目）2単位

古 市 英

競技スポーツの観点からバレーボールをとらえ、好成績を収めるための方策を、実技と理論、及び試合を通して追求する。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バスケットボール）（昭和64年度開講科目）2単位

伊 藤 順 蔵

バスケットボールの基礎技術として、ボールハンドリング（パス、ドリブル、ショット、リバウンド）・からだを扱う技術・ディフェンスの技術修得

基礎的プレーとして、1対1の攻防・2対2の攻防・3人の連けいプレーと防御・アウトナンバーの攻防の技術修得と、バスケットボール指導法の研究について学んでいく。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バスケットボール）（昭和65年度開講科目）2単位

伊 藤 順 蔵

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、チームディフェンスとチームオフェンスの完成を目標とする。実技は、マンツーマンディフェンスとその攻撃法・ゾーンディフェンスとその攻撃法、プレスディフェンスとその攻撃法・速攻とその防御法を修得する。

あわせて、審判法、技術の段階に応じた指導法・スカウティング・作戦計画などについて学んでいく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ラグビー）（昭和64年度開講科目）2単位 日比野 弘

ラグビーの攻防理論、集団スキル、ルールなどを専門的に研究する。

各人の競技者として、又は指導者としての力を向上させることを目的とする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ラグビー）（昭和65年度開講科目）2単位 日比野 弘

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、ラグビーのコーチング、レフリングトレーニングなどの知識を習得する。スポーツ指導者として社会に貢献できる人材の養成を目的とする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（サッカー）（昭和64年度開講科目）2単位 加藤 久

技術・戦術・体力というサッカーに不可欠な三つの要素のうち、特に技術に関しての解説と実習を行なう。

運動学習理論をふまえながら、サッカーの技術が、どのような一般性と特殊性を持つものであるかを明らかにし、ゲームを通じてその技術の体得を目指したい。

また、サッカーの歴史と現状、サッカーのルールやゲームの進め方についても言及したい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（サッカー）（昭和65年度開講科目）2単位 加藤 久

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の理解のもとに、サッカーの個人戦術・グループ戦術・チーム戦術を解説・実習する。

また、サッカーの体力とはどういうものか、そのトレーニングの方法はどうすべきかについても論じていきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（スキー）（昭和64年度開講科目）2単位 佐藤 千春

スキー技術、およびスキー技術に関するいろいろな運動、運動感覚、筋肉感覚、心理的なことまで、科学的に研究することが、この特論の主目的である。しかし、とりあえずこの実習Ⅰにおいては、教職を希望するものに対して、スキー技術、運動特性、環境、歴史、組織、ルールなどの解説、実技の実習を狙いとして授業を進めたい。雪のない季節には、トレーニング理論とその実習を組み入れることを考えたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（スキー）（昭和65年度開講科目）2単位 佐藤 千春

「スポーツ特論・実習Ⅰ」に解説したように、スキー技術、およびスキーに関するいろいろな運動を、スポーツ科学という領域において研究することを目的として、この特論・

実習Ⅱの授業を進めていきたい。そのためには、いろいろの創意工夫をしていかなければならないだろう。視野を広くもって考えていきたい。「特論・実習Ⅰ、Ⅱ」ともに、それぞれ分立したものではなく、もとより一つのものを便宜的に二つに分けて実習するに過ぎない。このことも明記しておきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（スケート）（昭和64年度開講科目）2単位 伊藤 順 蔵

基礎技術として、フォアスケーティング、スカーリング、スネーキング、クロッシング、バックスケーティング、ストップ・ターンをマスターするとともに、スピードスケーティング、アイスホッケー、フィギュアの各競技種目の初歩の技術修得

あわせて、スケートの歴史、スケートの手入れ法などスケートの知識を学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅱ（スケート）（昭和65年度開講科目）2単位 伊藤 順 蔵

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、スピードスケーティング、アイスホッケー、フィギュアの各競技種目の技術研修に励むとともに、バジテストなどに挑戦する。

あわせて、競技の見方、カリキュラムなどの指導計画のたて方、指導法・評価法などを学ぶ。

スポーツ史 2単位 〔後期〕

寒川 恒 夫

スポーツ・体育の起源から今日に至る発展史を、未開社会、古代、中世、近世、近代、現代、にわけて講義する。テキストには、岸野雄三（編著）『体育史講義 1984年』（大修館）を使用する。

比較スポーツ論 2単位 〔前期〕

古市 英

共産圏諸国（ソ連・中国・東ドイツ等）のスポーツについて、その成立過程（歴史）、思想、組織、社会の中での評価等に関して考えることによって、自由圏諸国（日米英韓等）のそれとの相違点、類似点を描き出し、比較研究する。

教科書は、『共産主義国のスポーツ』を使用する予定であるが、詳細については、授業開始時に指示する。

コーチング論（昭和64年度開講科目）2単位

塚脇 伸 作

スポーツにおけるコーチングの基礎理論とその応用論について具体例をあげて次のような内容を論じる

1. コーチングシステム
2. 体力と技術
3. 指導者と観察力

4. トレーニング計画とトレーニング管理
5. 勝敗を決定する要因
6. その他、競技力向上に関するコーチングの諸問題

体育測定法・演習 2単位

永田 晟
前田 勝也
葛西 順一

本講座は、スポーツ科学の体育学指導者が具備すべく各種の基本的な測定法の習得と解説をおこなう。さらにデータの処理、整理、統計の方法を教授し、レポートや卒業論文のまとめ方を体得する。そのために少人数による実験・実習をおこない、実際にデータのまとめをおこなう。

永田が、体育に必要とする統計学を全般的に講義する。そして生体と運動時の筋電図・心電図・心拍数・呼吸循環系機能を含む基礎的な運動生理学のテクニックを教え、各自で演習し、スポーツ科学の基礎を習得する。

前田が、高速度カメラ、アイ・カメラ、VTR・写真等による動作分析法やキネシオロジーの基本的な技得を実習させる。実際のスポーツのキネマテックスや photography の分析法を講義・演習する。

葛西は、身体の構造と機能および体力テスト等を含む体育測定学を中心に分担し、各種の体力テストや運動能力テストに習熟させる。そして体力の診断と評価が可能な技術を詳講する。

3人担当者のセッションの授業を6～7週・連続的に同時に併行する。そしてローテーションをおこない、年間において全員が3つのセッションをすべて演習する。

武道概論 2単位 [前期]

志々田 文明

今日、武道という言葉は、一般に柔道や剣道など日本古来の運動文化ないしは運動技術を表わす総合名称として用いられているが、このような用法は明治時代の末以降のことである。江戸時代には武道は武士道ないしは士道と同意語に使われていた。この講義では、武道を考察する際の原点としてそれら用法の変遷をふまえて武道の精神性（倫理道德的あるいは求道的）及び技術性などの文化的特色をみていく。それらの特色から、現代行なわれている武道を考え、今後のあり方に考究したい。

〔教科書〕：小林信二著『武道のすすめ』

ダンス概論 2単位 [後期]

山本 数子

舞踊の歴史を通して技術と表現。形式と内容及び構造。舞踊と音楽との関連、各種ダンスについての知識を深める。

教科書は使用しません。

原書講読演習Ⅰ 2単位

寒 川 恒 夫

「スポーツ史」をテーマとした演習をおこなう。スポーツは、古典ラテン語の *deportare* (「気晴らしをする」、「遊ぶ」) を祖語とし、古代フランス語の *deporter, desporter* を經由して、15～16世紀のイギリスにおいて今日の語形 *sport* を成したが、今日周知の「運動競技」を意味の第1位に据えたのは、遅れて19世紀後半のことであった。本演習では、スポーツの概念史上の最後期、いわゆる近代スポーツの段階をとりあげ、その成立過程を具体的にいくつかの競技種目について、外国語諸文献の講読を通して学習する。テキストはそのつど指示する。

原書講読演習Ⅰ 2単位

村 岡 功

本演習ではスポーツ生理学あるいは運動生理学に関する専門書を輪読しながら授業を進める。

従って、この授業では単なる語学的な理解にとどまらず、スポーツおよび運動を生理学的側面から捉え、スポーツ科学に対する理解を深めていただきたい。

原書講読演習Ⅰ 2単位

宮 内 孝 知

本演習は、スポーツの社会的な理解を、英文を通して身につけることをねらいとする。

しかしながら、現在のところ、*Sport Sociology* ないしは *Social Aspects of Sport* そのものを論じた著作はみられないようである。そのようなタイトルであるとしても、多くは「論文集」である。従って、本演習では、それらの論文集の中から、上記のねらいに合った論文を選び、精読しながら理解を深めていくことになる。

原書講読演習Ⅰ 2単位

濱 野 吉 生

この演習は、英米の原書講読を通じて、近代スポーツがいつ頃、誰によって担われ、どのように発展してきたか、またその本質・原理は何か、を理解することを目的として進めていく。

テキストについては、授業中に指示する。

原書講読演習Ⅱ 2単位

梅 澤 宣 雄

主として、北米及び英国のスポーツ経営学に関する文献を取り上げ、講読する。

原書講読演習Ⅱ 2単位

児 玉 昌 久

ストレス・コントロールを中心トピックとして、これに関連する文献を取りあげる。必ずしも専門性の高い文献を読むことを目的としている訳ではなく、スポーツ科学に直接関

わるよう限定もしないで、人間の生活、行動の広い分野における well-being を脅やかす、ストレスの諸問題とそれに対する対処行動や self control の諸方法に関する文献を選んでゆく予定であるが、受講生の希望によっては、まとまった本を時間をかけてじっくり読む事、あるいは受講生各自に興味あるトピックについての文献を紹介してもらう事なども考えている。

原書講読演習Ⅱ 2単位

比 企 静 雄

スポーツ科学の研究には、人文科学・社会科学・自然科学などの各分野にわたる様々な側面があるが、自然科学の分野では、生理学 (Physiology), 解剖学 (Anatomy), 人類学 (Anthropology), 生物化学 (Biochemistry), 生体力学 (Biomechanics), 人間工学 (Ergonomics) のような、医学・理学・工学などに含まれる領域あるいはそれらの境界領域における、基礎的、応用的な研究が関与している。さらに、これらと心理学、社会学、教育学、文化人類学、法学、経済学などとの接点を取扱うことも必要になる。

この原書講読演習では、英文の国際的な学術書や学会雑誌などから、このような領域での代表的な研究論文を選んで講読するが、とくに、その英語の記述内容を詳細に分析して理解したうえで、それらに含まれる研究の問題点や解決法などを考察し、それを通して、自然科学の側面からスポーツ科学の研究の手法を把握することを主眼としている。

原書講読演習Ⅱ 2単位

古 市 英

政治体制の違いが、それぞれの国のスポーツを違った形に浮きぼりしている。換言すれば、政治が、スポーツに大きな影響力を及ぼしている今日、スポーツの本質は何か、あるいは、時代の変化に伴ってスポーツは、どう分類されたらよいのか、を考えながら、特定国の体育・スポーツについて探究する。

政治体制の異なる特定二国間の体育やスポーツを比較することによって、両者の特長を把握し、将来の姿を探る。

専 門 教 育 科 目 (各学科共通 選択)

※開講年度の表示のない学科目は、すべて本年度(昭和63年度)開講科目

哲学の人間学Ⅰ(昭和64年度開講科目) 2単位

北 村 實

「人間」は生物の一種であるが、しかし他の生物とは質的に異なる特質を持っている。「人類学」が動物学の一分科として人間を研究していくのに対して、それだけではとらえきれない「人間」の特質を総合的に考察していくのが「哲学の人間学」である。講義では、広い視点から「人間」を見つめ直し、「人間」とは何か、という古くて新しい問への私なりの答えを出してみたい。

哲学の人間学Ⅱ(昭和64年度開講科目) 2単位

北 村 實

「人間」についての哲学的考察はほとんどすべての哲学に含まれているが、しかしそれが「哲学の人間学」と銘打たれて登場したのは1920年代のドイツにおいてであった。それは M. Scheler, Plessner から始まって、Gehlen, Landmann に受け継がれていったとされているが、講義では、この「哲学の人間学」の検討を行う。

言語・記号論(昭和64年度開講科目) 2単位

遠 藤 弘

言語に関する、あるいは記号一般に関する学際的な研究は今日ますます盛んになりつつある。それというのも、「人間は記号である。」と解することの可能性が一層現実的なものとなってきているからである。本講は哲学的な視座から記号現象一般の人間の意味を解明するとともに、とりわけ言語の本質に探りを入れることを目的とする。基本的な資料をプリントにして配布し、できるだけ日常的な事例に沿って話を進めて行くことにする。

民族文化論(昭和64年度開講科目) 2単位

吉 村 作 治

民族には独自の文化が存在しているが、その文化は必ずしも独特なものだけではなく、他の民族との交流によってお互いに影響し合っている。本講座は、まず民族とは何かを、歴史的に検証し、部族・人種・民族の相関関係を考えて後、アラブ民族とユダヤ民族の相克を文化的な面を中心に考察してみたい。両民族の生いたちから、現在尚、両民族間に争乱状態を作りあげているものは、政治的な確執だけではないことを前提に考えていく。

認知理論(昭和64年度開講科目) 2単位

西 本 武 彦

認知については、心理学の極めてコンテンポラリーな分野として、近年注目を浴びているが、ともすると抽象的で難解と思われがちである。本講ではできるだけ具体的事例や簡

単な実験をまじえながら、知覚・学習・記憶・思考・言語といった各分野を統一的に説明する枠組みとしての認知的アプローチの今日的意義を紹介していきたい。テキストについては講義の中で指示する。出席厳守。

人 格 心 理 学（昭和64年度開講科目）2単位

富 田 正 利

人格(Personality)とは人間を個人として総合的に捉える概念であり、気質、性格、知能といった個人のすべての特性を包括する概念である。その研究は近代心理学の成立の遙か以前から関心を持たれてきたし、現代に於ても心理学の究極の目標として追求する研究者も多い。本講ではそうした研究の歴史を振り返り、近代心理学における人格研究の多様な展開の跡をたどり、現代における諸理論を概観して、人格研究のあり方を探りたい。

教 育 心 理 学Ⅰ（昭和64年度開講科目）2単位

佐々木 正 人

「こども」、「教師」、「学校」といった教育の場を構成している諸要素の有機的な結びつきとして「教育」を捉え直してみたい。「こども」社会史、認識の発達理論、「教育」の認知人類学などの成果から、教えること、学ぶことの本来の姿について議論したい。

運 動 心 理 学（昭和64年度開講科目）2単位

児 玉 昌 久

新しい運動を覚えたり、すでに覚えている運動の技術を高めようとする時、多くの要因がある原則に従って作用しあう。それら種々の要因や法則のうち心理学的な問題をとりあげて解明し応用してゆくのが運動心理学の目的である。運動技術獲得のメカニズムや法則性、技術向上を促進したり妨害する心理的要因や動機の問題、獲得した技術の十分な発揮を援けたり妨げたりするメンタル諸問題についての基礎的な面を述べる。

社 会 心 理 学（昭和64年度開講科目）2単位

斉 藤 勇

社会心理学の基礎的知識と基本的考え方について、講義する。講義内容は次の通りであるが、社会心理学の実験的アプローチを中心に紹介していく。

- ・社会的認知
- ・社会的態度
- ・社会的欲求
- ・社会的行動
- ・グループ・ダイナミックス

実際の実験や調査も可能な限り実施する予定である。

保 健 社 会 学 2単位〔前期〕

佐久間 淳

はじめに現代社会の生活諸相の特徴にふれ、健康および疾病（成人病など）との関係を説明する。そして日本人の健康や傷病に対する意識や行動、問題点について文化人類学、

行動科学，統計的手法等を含め，保健・医療社会学的解析法を示す。

また，都市と農村，家族，職業，階層などと有病率・受療率，死亡率，平均寿命，人口高齢化など現実の問題に対する理解を深め，その対策を考究する。

〔テキスト〕：佐久間淳著『医療社会学概説』（大修館）

人間工学Ⅰ（昭和64年度開講科目）2単位

石田 敏 郎

人間工学の基本的な考え方と，人間工学を理解するために必要な基礎的事実について，具体的な実験例をもとに概説する。

また，人間工学は学際的な学問であり，最近の進歩も著しいので，そうした話題にもふれる。

脳神経科学（昭和64年度開講科目）2単位

濱 清

脳神経科学概論

- ① 興奮の伝導および伝達と神経細胞の構造
- ② 神経細胞レベル，中枢レベルにおける情報処理の構造的基礎の概説を行う。

〔参考書〕：

Principle of Neural Science, Kandel and Schwartz, Elsevier Co.

Introduction to Nervous System, Bullock, Freeman Co.

From Neuron to Brain, Kuffler and Nicholls, Sinauer Co.

精神医学Ⅰ 2単位 〔前期〕

中 村 陸 郎

精神医学は，精神面の異常を呈する疾患，即ち精神障害（精神的疾患）を対象とする医学の重要な一分科である。本講義では，精神医学の歴史，精神医学における諸分野と，諸理論，精神症状にはどのようなものがあるか，精神症状と脳の機能との関連性，各種の代表的な精神障害（概念，成因，症状，経過，治療など），我が国の精神科医療の現状と問題点などについて講述を行う。

精神医学Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位

濱 田 秀 伯

狂気の歴史をたどることは，人間の歴史をたどることにほかならない。本講座では紀元前から現代に至る精神医学の流れを概観し，精神障害の形態，症状，考え方を示しながら，人間が心の病とどのように関わってきたのかを述べる。特に19世紀ヨーロッパに始まる近代精神医学が，機械・還元論的な自然科学の思潮に対抗し，人間を不可分な全体として把える見地から成立した過程を，生物学，心理学，社会学，哲学などとの関連において論じる。

精神衛生概論（昭和64年度開講科目）2単位

山崎 勝男

精神衛生とは、「心の健康」の維持と向上、および「心の不健康」の治療と予防に関する複合科学である。今日の加速度社会のどの側面を取り上げて、人間の心に大きな影響を及ぼさないものはない。ここでは、ストレス病や神経症などを中心テーマに選び、発症のメカニズムを考察することから、その防止策に視点をあて、いかにして「心の健康」を獲得するかを考えてみる。

精神身体医学Ⅰ（ストレスと生体反応）2単位 〔前期〕

飯島 登

精神的、肉体的ストレスを受けた生態の細胞レベルにおける初期反応は、エネルギー産生能の増大によって、細胞機能を維持しようとする防衛反応を示す。これは先端科学の一部として脚光を浴びつつある、脳・腺（ホルモン）・免疫のネットワークとして研究されている。ストレスを内部情報（遺伝）に対する外部情報とすれば、その引き金としての神経内分泌系が重要である。情報の整理と情報の場としての大脳辺縁系（主として海馬、視床下部）に焦点を当て、脳ホルモン、成長ホルモン、ACTH、エンケファリン類、向甲状腺ホルモンの最近の進歩を窺いつつ、ストレスの生態反応を解説したい。

栄養学Ⅰ 2単位 〔後期〕

太田 富貴雄

体格も良く、健やかで体力にも恵まれ活発な一生を送ることは、多くの人の願いであろう。体格を造る材料を提供し、生命維持に不可欠な生理作用の調整を行い、活動のためのエネルギーを供給するのが食物である。栄養学は食物と発育・健康・疾病との関係を究め、健康増進に役立つ食生活の指針をつくることを目的としている。本講義では、人間が必要とする食物成分（栄養素）の種類と生理的役割、至適摂取量、各種食品の栄養的特徴など栄養学の基本的事項について述べる。また、体力増強や健康水準の向上を図るための食生活のあり方についても言及する。

スポーツ医学Ⅰ 2単位 〔前期〕

福林 徹

スポーツ障害とスポーツ外傷を部位別に、また競技別に事例を提示しながら紹介し、その治療法、救急処置について言及する。さらにこれらと関連した筋生理や、局所解剖などの基礎的な部門も平行してとり扱ってゆきたい。またスポーツとその安全対策・障害予防という面から、トレーニングや栄養、食事といった面についても言及してゆく。

スポーツ医学Ⅱ 2単位 〔後期〕

飯島 登

スポーツは健康や疾病の予防に有用であるのみでなく、食事療法、薬物療法とともに運動療法として医療に確固たる位置を占めつつある。しかし運動過剰や身体状況によっては逆効果を示し、ここにメディカル・チェックの必要性が改めて認識されつつある。運動が

生体生理にいかなるかわりあいがあるかを科学的に平易に解説し、特に心臓疾患・高血圧・糖尿病・腰痛などの老化現象、成人病との関係を含めて具体的に説明する。

救急処置法 2単位 [前期]

徳川 英雄

人が人の手助けを必要としている危急状態にある時、初療こそがもっとも大切であることは論を待たない。時間との戦いである初療に逸早く参加できる人は、たまたま現場近くに居合わせた人である。この意味では、国民の一人一人が最低限の救急法を身に付けており、憶することなく応用できるレベルにあることが理想である。救急法、すなわち Life Support を basic L. S. と advanced L. S. の両面から解説するが、救急法の実践者、指導者として身に付けていただきたい。

物理療医学 2単位 [後期]

福林 徹

現在病院や諸施設で行われている一般的なリハビリテーション医学について、運動療法、温熱療法、装具療法などにわけて具体的に解説してゆく。また特にスポーツ選手に対しての疾患別運動療法や、スポーツリハビリテーション、各種テーピング法とその意義、トレーナーやコーチの医学的役割についても言及したい。

労働衛生概論 2単位 [前期]

中原 英臣

一口に労働衛生といっても、近年日本の産業構造の激的な変化とともに大きく変わってきている。

古くは炭鉱での塵肺症、林業での白ろう病、印刷業での鉛中毒等の職業病があり、今日では職場でのストレスやワープロでの視力障害等が問題となっている。また最近では半導体、新素材、バイオテクノロジーといったハイテクノロジーの現場での健康管理も大きな問題となりつつある。こうした歴史的背景をふまえて広い視野に立った講義を行いたい。

看護法 2単位 [後期]

徳川 英雄

看護術、あるいは看護法というものは、実は、人類が生れた時から存在していたものに相違ない。正確に言うと人が病いや悩みを持った時に生れているはずのものである。そして人類が「最大の悩みである死」と対面し続ける限り存在するものであろう。社会が発展し、看護も看護法となり、看護学となってきた。この過程を解説しながら、近代医学の一翼を担っている看護は、今や臨床医学のみならず、社会学、心理学、哲学、宗教学などをとり入れたものでなければならないことを強調したい。

運動処方論(昭和64年度開講科目) 2単位

永田 晟

トレーニングと運動処方の違いを明確にして、それらの基礎的な生理科学と資料を提示する。そして人間改造の可能性を探り、健康と体力の保持増進の道標や指標を具体化する。

る。

運動処方上、必須な①運動内容（種類） ②運動強度 ③運動強度の論理を教示し、ヒトのレベルに対応した個別的な処方箋作りの方法論を展開する。特に、一般人の健康体力のための処方が組み立てられ、“健康・体力相談士”としての能力が得られるように詳講し配慮する。別に国立競技場の健康・体力相談室を体験する。

地域体育論（昭和64年度開講科目）2単位

濱 野 吉 生

地域社会における体育・スポーツの進め方、その法的根拠、歴史と現状などについて、諸外国の例も交えながら述べていくが、なおその他にスポーツそのものについても、かなりのウェイトを置いて言及する予定である。

参考書等については、授業中に指示する。

職場体育論（昭和64年度開講科目）2単位

前 田 勝 也

職場体育といっても、一般にはあまり聞きなれない言葉かもしれない。総括的に考えれば、レクリエーションということになるだろうが、ここでは、仕事を持つ人々の職場における状況を、人間に加わる負担という形でとらえ、それらからの人間への影響、さらにその影響に対応する意味でのレクリエーションの問題について考察を進める。

役付教職員一覧

学 部 長	浅 井 邦 二
教 務 主 任 (教務担当)	濱 口 晴 彦
教 務 主 任 (学生担当)	濱 野 吉 生
教 務 副 主 任 (教務担当)	佐 古 順 彦
教 務 副 主 任 (学生担当)	山 内 兄 人
人間基礎科学科主任	大 島 康 行
人間健康科学科主任	相 馬 一 郎
スポーツ科学科主任	窪 田 登
事 務 長	坂 田 孝 昭
図 書 課 長	遠 藤 雅 司

昭和63年度 クラス担任者一覧

第 1 学 年

クラス	担 任 者	クラス	担 任 者
1	吉 村 作 治	11	白 井 恒 夫
2	寒 川 恒 夫	12	鈴 木 晶 夫
3	三 枝 幸 夫	13	志々田 文 明
4	上 田 雅 夫	14	石 田 敏 郎
5	神 崎 巖	15	山 内 兄 人
6	堀 田 郷 弘	16	根 建 金 男
7	坂 野 雄 二	17	永 田 晟
8	濱 野 吉 生	18	比 企 静 雄
9	宮 内 孝 知	19	青 柳 肇
10	谷 川 章 雄	20	佐々木 正 人

第 2 学 年

クラス	担 任 者	クラス	担 任 者
1	浅 井 邦 二	18	野 嶋 栄一郎
2	矢 野 敬 生	19	小 泉 英 二
3	大 島 康 行	20	木 村 利 人
4	濱 口 晴 彦	21	宮 崎 正 己
5	春 木 豊	22	相 馬 一 郎
6	白 井 恒 夫	23	児 玉 昌 久
7	吉 岡 亨	24	山 崎 勝 男
8	池 岡 義 孝	25	村 岡 功
9	蔵 持 不三也	26	寒 川 恒 夫
10	岡 野 静 二	27	宮 内 孝 知
11	門 前 進	28	町 田 和 彦
12	吉 村 正	29	比 企 静 雄
13	佐 古 順 彦	30	古 市 英
14	店 田 廣 文	31	濱 野 吉 生
15	石 田 敏 郎	32	鈴 木 秀 次
16	野 呂 影 勇	33	窪 田 登
17	菅 野 純	34	塚 脇 伸 作

教 員 一 覧

※印は、64年度以降の就任予定者

専任教員（五十音順）

氏 名	主な担当科目
青 柳 肇	演習Ⅱ（達成動機づけ）
浅 井 邦 二	心理学概論
※飯 野 徹 雄	遺伝学及び実習
池 岡 義 孝	家族社会学及び実習
石 田 敏 郎	情報処理（コンピュータ基礎・実習）
伊 藤 順 蔵	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（バスケットボール）
上 田 雅 夫	スポーツ心理学
臼 井 恒 夫	都市社会学及び実習
※梅 澤 宣 雄	スポーツ経営学Ⅰ，Ⅱ
大 島 康 行	生態系科学
太 田 章	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（レスリング）
※太 田 富貴雄	栄養学Ⅰ，Ⅱ
岡 野 静 二	福祉援助論
柿 崎 京 一	地域社会学及び実習
葛 西 順 一	体育測定法・演習
加 藤 清 忠	身体形態学（解剖学を含む）
加 藤 久	スポーツ方法論・実習（球技Ⅱ サッカー）
神 崎 巖	独語
菅 野 純	学校カウンセリング
木 村 一 郎	細胞学及び実習
木 村 利 人	バイオエシックス（自然・生命・人間の秩序）
窪 田 登	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（ウエイトトレーニング）
蔵 持 不三也	比較文化論
黒 田 勲	行動医学Ⅰ，Ⅱ
小 泉 英 二	演習Ⅰ（学校カウンセリング——初等・中等教育とカウンセリング——）
児 玉 昌 久	運動心理学
三 枝 幸 夫	英語
坂 野 雄 二	行動療法Ⅰ，Ⅱ

嵯峨座 晴 夫
 佐 古 順 彦
 佐々木 正 人
 佐 藤 千 春
 重 原 淳 郎
 志々田 文 明
 鈴 木 秀 次
 鈴 木 晶 夫
 寒 川 恒 夫
 相 馬 一 郎
 田 中 純 藏
 店 田 廣 文
 谷 川 章 雄
 チャールズ・
 W・ゲイ
 塚 脇 伸 作
 永 田 晟
 根 建 金 男
 野 嶋 栄一郎
 野 呂 影 勇
 濱 清
 濱 口 晴 彦
 濱 野 吉 生
 春 木 豊
 比 企 静 雄
 古 市 英
 堀 田 郷 弘
 町 田 和 彦
 宮 内 孝 知
 宮 崎 正 己
 村 岡 功
 門 前 進
 矢 野 敬 生
 山 崎 勝 男
 山 内 兄 人
 吉 岡 亨
 吉 村 作 治

社会変動論
 環境心理学Ⅱ
 認知発達理論
 スポーツ特論・実習Ⅰ, Ⅱ (スキー)
 独語
 武道概論
 バイオメカニックスⅠ
 非言語行動論
 スポーツ文化論
 環境心理学Ⅰ
 英語
 社会開発論
 日本文化史
 英語
 スポーツ特論・実習Ⅰ, Ⅱ (体操競技)
 バイオメカニックスⅡ
 行動理論
 教育心理学Ⅱ
 人間工学Ⅱ
 脳神経科学及び実習
 社会学理論史
 地域体育論
 行動学
 リハビリテーション
 比較スポーツ論
 仏語
 公衆衛生学Ⅰ, Ⅱ
 スポーツ社会学
 運動・保健概論
 運動生理学
 心理療法Ⅰ, Ⅱ
 社会集団論
 精神生理学及び実習
 比較形態学
 生理学及び実習
 比較文明論

兼 担 教 員 (五十音順)

氏 名	本属箇所	担当科目
東 清 和	教 育 学 部	人間発達の心理学
安 藤 宏 三	体 育 局	スポーツ方法論・実習 (格技) 剣道 スポーツ特論・実習Ⅰ (剣道) スポーツ特論・実習Ⅱ (剣道)
池 原 義 郎	理 工 学 部	スポーツ工学Ⅰ
石 垣 春 夫	教 育 学 部	基礎数学
石 渡 信 一	理 工 学 部	物理学
岩 本 憲 児	文 学 部	映像論
宇佐美 昭 次	理 工 学 部	化学
遠 藤 弘	文 学 部	言語・記号論
大 井 邦 雄	文 学 部	英語Ⅱ
大 沢 慶 己	体 育 局	スポーツ特論・実習Ⅰ (柔道) スポーツ特論・実習Ⅱ (柔道)
岡 田 浩 平	教 育 学 部	独語Ⅱ
奥 島 孝 康	法 学 部	法学
長 田 攻 一	文 学 部	余暇論
小野沢 弘 史	体 育 局	スポーツ方法論・実習 (格技) 柔道
角 山 元 保	教 育 学 部	仏語Ⅱ 社会意識論 哲学の人間学Ⅰ 哲学の人間学Ⅱ
北 村 實	文 学 部	化学
桜 井 英 博	教 育 学 部	独語Ⅱ
佐 藤 巖	教 育 学 部	スポーツ特論・実習Ⅰ (ボクシング) スポーツ特論・実習Ⅱ (ボクシング)
白 鳥 金 丸	体 育 局	英語Ⅰ, 英語Ⅱ
新 保 昇 一	文 学 部	教育学
鈴 木 慎 一	教 育 学 部	物理学
鈴 木 英 雄	理 工 学 部	英語Ⅱ
鈴 木 三喜男	政治経済学部	スポーツ特論・実習Ⅰ (バドミントン) スポーツ特論・実習Ⅱ (バドミントン)
関 一 誠	体 育 局	英語Ⅱ
田 辺 洋 二	教 育 学 部	スポーツ方法論・実習 (レクリエーション)
角 田 真一郎	体 育 局	特論Ⅱ
外 木 典 夫	文 学 部	

富田正利	文学部	心理検査法Ⅰ 心理検査法Ⅱ 人格心理学
富永厚	文学部	倫理学
中島国彦	文学部	文学
中村茂	体育局	スポーツ方法論・実習(体操)体操Ⅰ
西大立目永	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ(野球) スポーツ特論・実習Ⅱ(野球) 保健体育科目実技(軟式野球)
西本武彦	文学部	認知理論
野中涼	文学部	英語Ⅱ
野村圭介	商学部	仏語Ⅱ
橋本仁司	教育学部	組織心理学
速川治郎	社会科学部	哲学
林敏弘	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ(軟式テニス) スポーツ特論・実習Ⅱ(軟式テニス)
日比野弘	体育局	スポーツ方法論・実習(球技Ⅱ)ラグビー スポーツ特論・実習Ⅰ(ラグビー) スポーツ特論・実習Ⅱ(ラグビー) 保健体育科目実技(ラグビー)
船戸徳郎	体育局	スポーツ方法論・実習(体操)体操Ⅱ
古沢謙次	教育学部	独語Ⅱ
本戸啓嗣	社会科学部	英語Ⅱ
前田勝也	体育局	体育測定法・演習 職場体育論 保健体育科目講義(体育と生活)
宮城淳	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ(テニス) スポーツ特論・実習Ⅱ(テニス) 保健体育科目実技(テニス)
森武	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ(卓球) スポーツ特論・実習Ⅱ(卓球)
森祐子	文学部	独語Ⅱ
矢島忠明	体育局	スポーツ方法論・実習(球技Ⅰ)バレーボール
矢野正次	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ(水泳) スポーツ特論・実習Ⅱ(水泳) 保健体育科目実技(水泳)

非常勤教員（五十音順）

氏 名	担当科目
青 木 清	バイオエニックス 比較行動学
安 藤 喜久雄	人間関係論Ⅰ 産業・職業社会学
飯 島 登	精神身体医学Ⅰ（ストレスと生体反応） スポーツ医学Ⅱ
五 三 健	スポーツ方法論・実習（球技Ⅰ）バスケットボール
今 橋 盛 勝	教育法
大 池 美智子	音楽理論・実習
太 田 富貴雄	栄養学Ⅰ・栄養学Ⅱ 演 習Ⅰ・演 習Ⅱ
小 野 魁	特論Ⅰ
奥 村 賢	映像論
北 原 隆	人類学 自然人類学
児 玉 幹 夫	社会福祉論Ⅰ 社会福祉論Ⅱ
斉 藤 勇	人間関係論Ⅱ 社会心理学
坂 口 早 苗	学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
佐久間 淳	保健社会学
千 石 保	社会調査 社会調査・実習
中 条 一 雄	スポーツ情報論
徳 川 英 雄	救急処置法 看護法
中 原 英 臣	労働衛生概論
中 村 桂 子	生命科学論・社会生命科学・演習Ⅰ
中 村 陸 郎	精神身体医学Ⅱ 精神医学Ⅰ
野 池 恵 子	仏語Ⅰ，仏語Ⅱ
濱 田 秀 伯	精神医学Ⅱ
ヒュー・D・ ターナー	英語Ⅰ
ピーター・ ボラー	英語Ⅰ
深 川 長 郎	スポーツ行政論
福 林 徹	スポーツ医学Ⅰ 物療医学

フィリップ・
ヴァネ

牧 幸 一

宮 本 美沙子

山 我 哲 雄

山 本 数 子

リチャード・
L・スピア

ルイス・
リーバイ

ロジャー・N・
ジェフリース

仏語Ⅱ

独語Ⅱ

動機づけ理論

宗教学

スポーツ方法論・実習 (ダンス)

スポーツ特論・実習Ⅰ (ダンス)

スポーツ特論・実習Ⅱ (ダンス)

ダンス概論

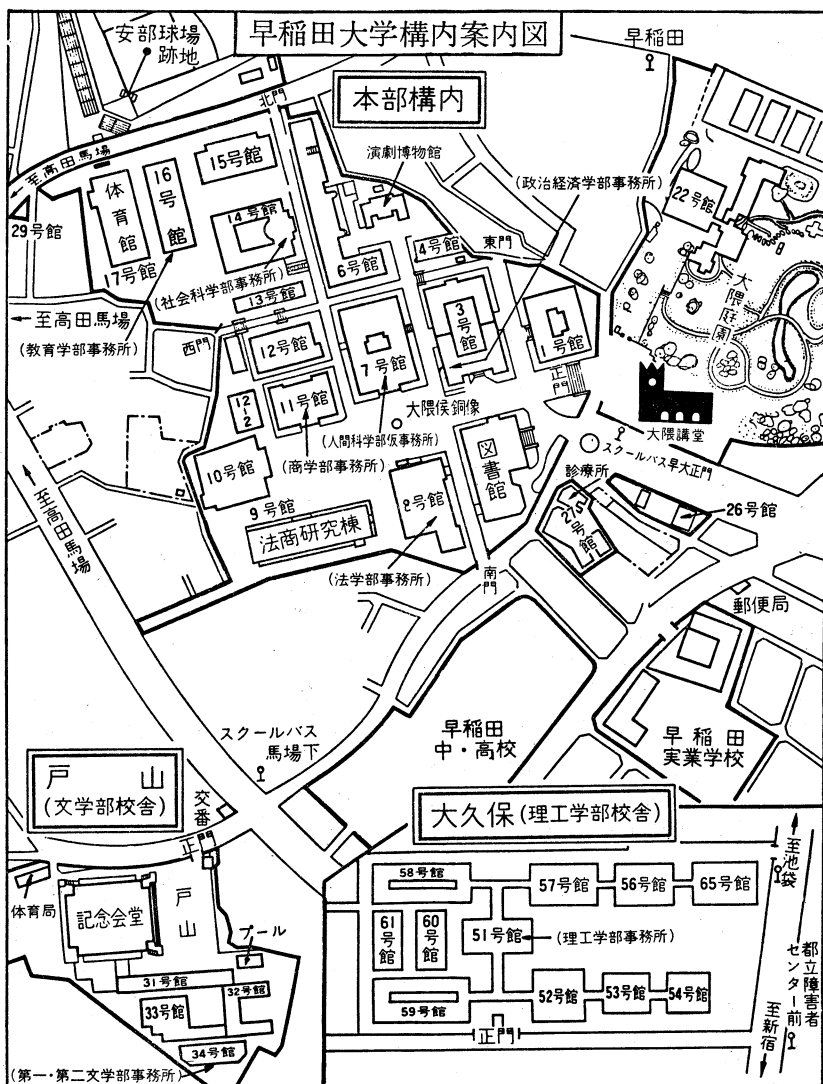
英語Ⅰ

英語Ⅰ

英語Ⅰ, 英語

建 物・号 館 案 内

100 号 館	8 階	研究室（一般教育・外国語・助手）
	7 階	研究室（スポーツ科学科）
	6 階	研究室（人間健康科学科） 人間総合研究センター所長室 実験室（人間健康科学科・人間総合研究センター） 会議室
	5 階	研究室（人間基礎科学科・スポーツ科学科・助手） 会議室 実験室（人間基礎科学科・人間健康科学科・スポーツ科学科） 学生実習室 面接室 観察室 暗室 測定機室
	4 階	学部事務所 学部長室 教務主任・副主任室 会議室 所沢図書館・事務室 保健室 教職員食堂 研究室（スポーツ科学科） 実験室（スポーツ科学科） 学生実習室
	3 階	演習室 埋蔵文化財展示室・整理室 学生ラウンジ 学生共同利用室 コピー室 学生食堂 売店 情科センター分室事務室 端末室 労務員・清掃員室
	2 階	60人教室 350人教室 700人教室 演習室 視聴覚教室 LL教室
1 階	60人教室 140人教室 200人教室 学生ラウンジ  エレベーター	守 衛 室



◎交通案内

本部構内

- E 電 高田馬場駅 (徒歩20分)
- 西武線 早稲田駅 (徒歩5分)
- 地下鉄 高田馬場駅—早大正門
- スクールバス 新宿駅西口—早大正門 (徒歩1分)
- 都バス 早稲田 (徒歩2分)
- 〃 渋谷駅—早大正門
- 〃 上野広小路—早稲田 (徒歩2分)
- 都電 三ノ輪橋—早稲田 (徒歩5分)

戸山 (文学部校舎)

- E 電 高田馬場駅 (徒歩20分)
- 西武線 早稲田駅 (徒歩3分)
- 地下鉄 高田馬場駅—早大正門 (馬場下町下車/徒歩2分)
- スクールバス 新宿駅西口—早稲田 (馬場下町下車/徒歩2分)
- 都バス 早稲田 (徒歩2分)

大久保 (理工学部校舎)

- E 電 高田馬場駅 (徒歩20分)
- 西武線 池袋駅—渋谷駅
- 都バス 新宿駅西口—早稲田
- (都立障害者センター前下車/徒歩3分)

早稲田大学所沢構内案内図

